

第39回 地域づくり団体

全国研修交流会島根大会

ご縁でつながる 地域づくり

～島根から はじまる 新たな物語～

報告書

日 程

令和5年
11/10(金)
分科会・交流会
分科会8会場

令和5年
11/11(土)
分科会
分科会8会場

18:00～20:00
全体交流会
サンパレス益田
島根県益田市高津町イ2355-12

令和5年
11/12(日)
10:00～12:00
全体会
島根県芸術文化センター
グラントワ
島根県益田市有明町5-15



Contents

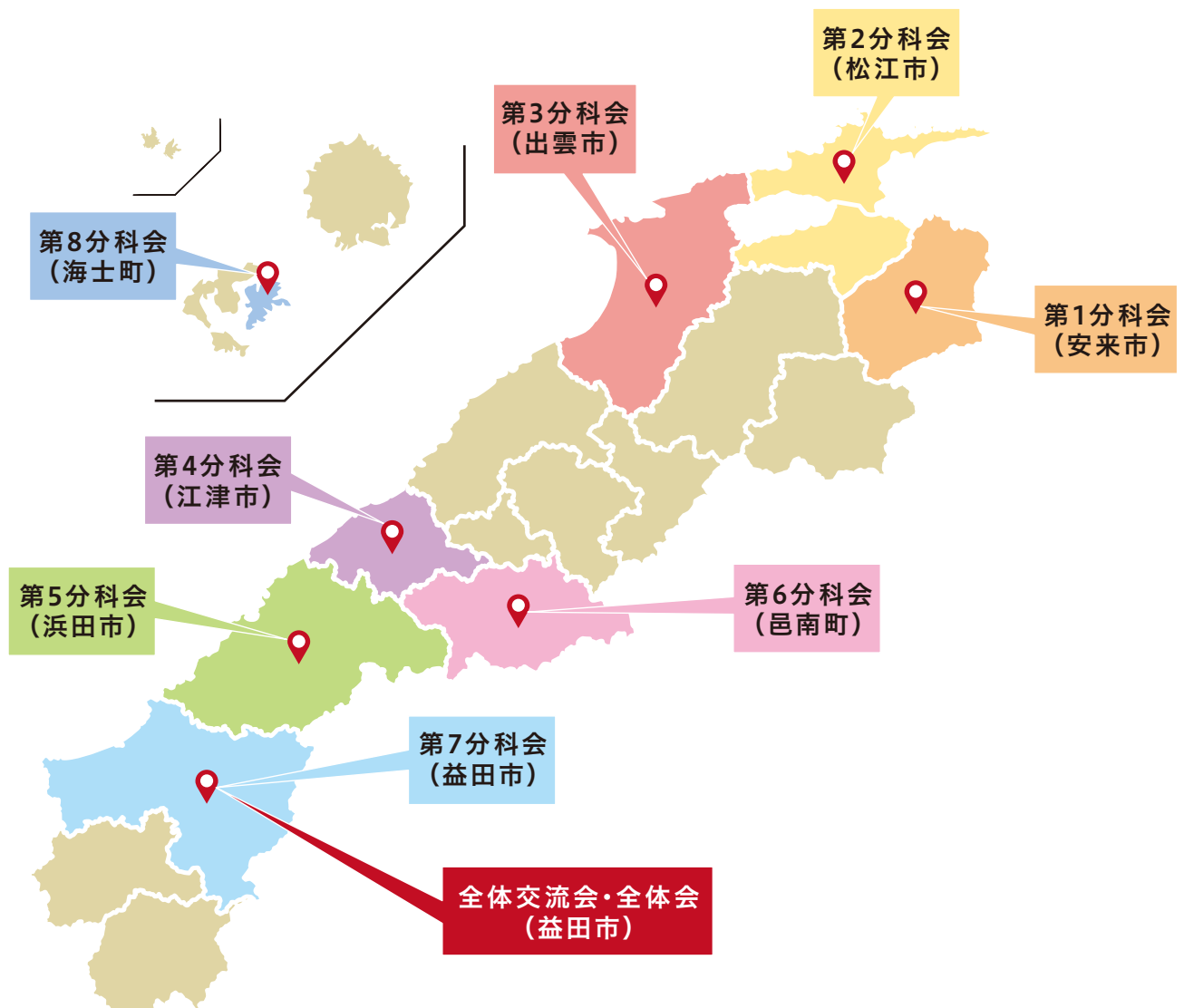
■大会概要		2
■分科会一覧		3
■全体交流会・全体会プログラム		4
■フォトギャラリー（全体交流会・全体会）		5～7
■全体交流会		8～12
開会あいさつ	小笠原 勝司（島根大会実行委員長）	8
歓迎あいさつ	丸山 達也（島根県知事）	9
来賓あいさつ	川住 昌光（一般財団法人地域活性化センター 常務理事）	10
乾杯発声	山本 浩章（益田市長）	11
閉会あいさつ	山本 宏史（とよかわの未来をつくる会 会長）	12
■全体会		13～42
開会あいさつ	岡崎 昌之（地域づくり団体全国協議会 会長）	13
歓迎あいさつ	丸山 達也（島根県知事）	14
来賓あいさつ	山越 伸子（総務省地域力創造審議官）	15
	林崎 理（一般財団法人地域活性化センター 理事長）	16
分科会開催報告		17～32
◆第1分科会【安来市】	地域を愛し行動し誇りに思えるまちづくり 今日も明日も10年後もずっとえ～ひだ（比田）	17～18
◆第2分科会【松江市】	市民が主役!! 松江の文化力を生かしたまちづくり	19～20
◆第3分科会【出雲市】	出雲神話と島根半島の大地の恵みを感じてみよう!	21～22
◆第4分科会【江津市】	攻めの定住施策（ビジネスプランコンテストによる人材誘致）	23～24
◆第5分科会【浜田市】	支えあう、いま・福のある里づくり	25～26
◆第6分科会【邑南町】	関係人口との協働による江の川鐵道と新たな地域づくり	27～28
◆第7分科会【益田市】	「ひとが育ち輝くまち益田」から全国へ	29～30
◆第8分科会【海士町】	離島にもっと若者の還流を	31～32
分科会発表		33～40
◆第1分科会【安来市】	え～ひだカンパニー株式会社	33
◆第2分科会【松江市】	松江NPOネットワーク	34
◆第3分科会【出雲市】	出雲国ジオガイドの会	35
◆第4分科会【江津市】	NPO法人てごねっと石見	36
◆第5分科会【浜田市】	今福まちづくり委員会	37
◆第6分科会【邑南町】	NPO法人江の川鐵道	38
◆第7分科会【益田市】	とよかわの未来をつくる会	39
◆第8分科会【海士町】	一般財団法人島前ふるさと魅力化財団	40
次回開催県PR		41
閉会あいさつ		42
■全体交流会・全体会アンケート結果		43～44
■参加者一覧（分科会ごと 都道府県、氏名、所属団体）		45

大会概要

- 1. 開催趣旨** 全国の地域づくり団体や行政関係者が一堂に会し、自主的・主体的な地域づくりに資する全国レベルの研修や情報交換を行うとともに、島根の多彩な地域づくりを全国に発信することを通して、県内外の地域づくりネットワークの強化・活性化を図ることを目的に、地域づくり団体全国研修交流会島根大会を開催。
- 2. テーマ** ご縁でつながる地域づくり ～島根から はじまる 新たな物語～
- 3. 主催** 地域づくり団体全国協議会
第39回地域づくり団体全国研修交流会島根大会実行委員会
島根県地域づくりネットワーク協議会
- 4. 後援** 総務省
一般財団法人地域活性化センター
公益財団法人島根県市町村振興協会
- 5. 特別協力** 一般財団法人全国市町村振興協会
- 6. 開催日時** **令和5年11月10日(金)～11月12日(日)**
 - ・分科会：11月10日(金)～11月11日(土)
 - ・全体交流会：11月11日(土) 18:00～20:00
 - ・全体会：11月12日(日) 10:00～12:00
- 7. 開催場所**
 - ・分科会：島根県内8会場
 - ・全体交流会：サンパレス益田（島根県益田市高津町イ2355-12）
 - ・全体会：芸術文化センターグラントワ（島根県益田市有明町5-15）

分科会一覧

分科会(会場)	テーマ	参加人数
第1分科会 (安来市)	地域を愛し行動し誇りに思えるまちづくり 今日も明日も10年後もずっとえ〜ひだ(比田)	20人
第2分科会 (松江市)	市民が主役!! 松江の文化力を生かしたまちづくり	18人
第3分科会 (出雲市)	出雲神話と島根半島の大地の恵みを感じてみよう!	19人
第4分科会 (江津市)	攻めの定住施策(ビジネスプランコンテストによる人材誘致)	15人
第5分科会 (浜田市)	支えあう、いま・福のある里づくり	19人
第6分科会 (邑南町)	関係人口との協働による江の川鐵道と新たな地域づくり	17人
第7分科会 (益田市)	「ひとが育ち輝くまち益田」から全国へ	19人
第8分科会 (海士町)	離島にもっと若者の還流を	18人



全体交流会・全体会プログラム

●全体交流会

開催日時	11月11日(土) 18:00~20:00
会場	ホテルサンパレス益田
主催者開会あいさつ	小笠原 勝司 (第39回地域づくり団体全国研修交流会島根大会 実行委員長)
歓迎あいさつ	丸山 達也 (島根県知事)
来賓あいさつ	川住 昌光 (一般財団法人 地域活性化センター 常務理事)
来賓紹介	
乾杯発声	山本 浩章 (益田市長)
分科会運営団体紹介	8分科会代表
余興	石見神楽【大蛇】 石見神楽久々茂保存会
閉会あいさつ	山本 宏史 (とよかわの未来をつくる会 会長)
記念撮影	全員撮影
閉会	

●全体会

開催日時	11月12日(日) 10:00~12:00
会場	島根県芸術文化センター グラントワ
主催者開会あいさつ	岡崎 昌之 (地域づくり団体全国協議会会長)
歓迎あいさつ	丸山 達也 (島根県知事)
来賓あいさつ	山越 伸子 (総務省地域力創造審議官)
来賓あいさつ	林崎 理 (一般財団法人 地域活性化センター 理事長)
来賓紹介	山本 浩章 (益田市長)
分科会報告	第1分科会~第8分科会
次回開催県PR	宮崎県
閉会あいさつ	小笠原 勝司 (第39回地域づくり団体全国研修交流会島根大会 実行委員長)
閉会	

全体交流会フォトギャラリー



開会あいさつ



歓迎あいさつ



来賓あいさつ



乾杯



オンライン



会場様子





地酒コーナー



物販コーナー



石見神楽



どじょうすくい



分科会紹介



閉会あいさつ



全体会フォトギャラリー



来賓あいさつ



歓迎あいさつ



来賓あいさつ



開会あいさつ



分科会報告



次回県P R



看板



閉会あいさつ

全体交流会あいさつ

開会あいさつ

島根大会実行委員長 小笠原 勝司



皆さん、こんばんは。

昨日からはじまった第39回地域づくり団体全国研修交流会島根大会へようこそおいでいただきました。

北は北海道から南は沖縄県まで全国各地から140名を超える皆さんにお集まりいただきました。ありがとうございます。

また地域づくり団体全国協議会の岡崎会長をはじめ、本大会に後援をいただいております、総務省の山越地域力創造審議官、地域活性化センターの林崎理事長、また日頃より私たちの地域づくり活動にご支援をいただいております、丸山島根県知事、山本益田市長にもご来賓としておいでいただいております。厚くお礼申し上げます。

今回の島根大会では、「地域づくり」という原点にかえり、島根の多彩な地域づくりの取組に触れて感じていただける内容を意識しました。

8つの分科会では、それぞれの地域課題を自分たちで解決するための活動を日々している団体が運営団体になっています。

昨日から、晩秋の島根らしく雨天からのスタートとなってしまいました。

本大会のスローガンは、「ご縁でつながる地域づくり」です。天気ごときで「ご縁」づくりに支障をきたすことはありません。

すでに各分科会でのご縁によるつながりはできていると思います。

海士分科会では、海士会場でさらに深い親交をしていただき、この益田会場では140名の参加者相互の交流に集中していただき、さらに多くのご縁でつながっていただきたいです。

不慣れな私どもスタッフではありますが、明日の全体会が終了するまで、心を込めて皆さんをおもてなしさせていただきますので、一緒に盛り上がっていきましょう。

どうぞよろしく申し上げます。



歓迎あいさつ

島根県知事 丸山 達也



皆さん、こんばんは。島根県知事の丸山達也でございます。

「第39回地域づくり団体全国研修交流会島根大会」の交流会が盛大に開催されますことをお喜び申し上げますとともに、全国からお集まりの皆様を心から歓迎申し上げます。ようこそいらっしゃいました。

さて、昨日、今日と県内8会場で分科会が開催されたと伺っております。全国から参加される皆様方に、県内各地の様々な魅力を直に体験していただけたことを大変うれしく思っております。

ここで、少し島根県の話をしていただきたいと思います。島根県は古くは出雲国（いずものくに）、石見国（いわみのくに）、隠岐国（おきのくに）という三国から成り、地理的・歴史的な背景から、それぞれに特徴ある文化・風土がございます。

また、島根はご縁の国とも言われています。旧暦10月10日（令和5年は11月22日）は、全国から八百万の神々が集い、万物を結ぶ「ご縁」について相談する神議りを行う地であることから、全国で島根県だけ10月を神在月と呼ぶことはご存じの方も多いと思います。ここにご縁の国と言われる所以がございます。ご縁とはつながりであり、まさに地域づくりに取り組まれている皆様大切にされているものではないでしょうか。今大会で新たなご縁を結んで頂きますと幸いです。

本日会場には、しまね和牛やのどぐる、益田市を流れる清流高津川でとれた鮎、鴨島蛤など、島根の多彩な食材を使った料理をご用意しております。中でもしまね和牛は、島根県内で生産されている黒毛和牛で、昨年、全国の銘柄牛が肉質を競う2大会である全国和牛能力共進会と全国肉用牛枝肉共励会で全国1位に輝きました。実は、同一ブランド牛がこの2冠を達成したのは全国で初めてのことでございます。本日はぜひ、全国に認められたしまね和牛を味わっていただきたいと思います。

結びに、39回目となる地域づくり団体全国研修交流会の歴史の中で、初めての島根県開催という機会をいただきましたことにお礼を申し上げますとともに、今大会テーマにもございますが、全国の地域づくりに取り組む皆様とのご縁がつながる交流会になりますようお願い申し上げます。私からの歓迎のご挨拶といたします。本日はおめでとございます。



来賓あいさつ

一般財団法人地域活性化センター 常務理事 川住 昌光



皆さん、こんばんは。一般財団法人地域活性化センター常務理事の川住でございます。このたびは、本大会が、県内外から地域づくり団体や地方自治体の方々など、地域づくりにたずさわっておられる皆様の参加を得て、ここ島根県で開催されますことを、心よりお喜び申し上げます。

私ども地域活性化センターは、地域づくり団体全国協議会の事務局を務めさせていただいており、地域づくり団体の活動支援を行わせていただいております。平成30年4月から地域活性化センターの賛助会員制度を導入し、より熱心に地域づくり活動を行う団体に対し、重点的に支援を行うこととしました。皆様におかれましても是非とも入会いただきますようお願いいたします。

地域づくり団体全国協議会の今年度の活動として、昨年度に引き続き、5月に総務省と連携して地域づくり団体都道府県協議会会長及び都道府県地域づくり団体担当課長会議を開催しました。その中で、島根大会の実行委員長であります小笠原勝司様から今大会に向けた活動の報告をいただきました。私自身、本大会の開催を心待ちにしておりました。

現在、それぞれの地域には、少子高齢化や地域経済の停滞などの厳しい状況下でありながら、地域の課題解決に向け積極的に活動されている皆さまがおられますが、そのことに改めて敬意を表しますと共に、当センターといたしましても、地域づくり団体全国協議会の活動をはじめ、全国の地域づくり団体の活動を今後とも支援して参りたいと考えております。

今回、全国の地域づくり団体の皆様が、ここ島根県において『ご縁でつながる地域づくり～島根からはじまる新たな物語～』をテーマに開催される研修交流会を通じて、県内8ヵ所で開催される分科会も含めて、歴史や自然、また島根県が誇る食文化などの地域資源に触れつつ、現地で展開されている多くの地域づくりの取り組みについて、その地域の皆様から直接学び、互いに情報を共有し、人と人との交流や連携の輪を広げられたことは、まことに有意義なことと存じます。

全国からご参加の皆様におかれましても、この研修交流会で得られた知識、体験、人的ネットワークなどをそれぞれの地域へお持ち帰りいただき、今後の地域づくりに生かしていただきたいと存じます。

最後になりましたが、本大会の開催にあたりご尽力いただきました島根大会実行委員会をはじめとする地域づくり団体の皆様、島根県及び県内市町の関係者の皆様に心から感謝申し上げますとともに、本大会が成功裏に終わりますことをご祈念申し上げまして、私の挨拶とさせていただきます。



乾杯発声

益田市長 山本 浩章



皆さん、こんばんは。益田市長の山本浩章です。

本日は、「第39回 地域づくり団体 全国研修交流会」を益田市で開催いただきますこと、島根県で開催いただきますことを感謝申し上げますと共に、全国各地よりおいでいただきました皆さま方を心から歓迎申し上げます。

益田市では、人口減少という大変深刻な課題に直面し、平成26年の2月に全国に先駆けた形で人口拡大計画を定めました。その後、政府の方でも地域の、特に地方の人口減少が深刻な課題であるということで、地方創生、それから総合戦略の策定が始まりました。

益田市はその先立って策定しました人口拡大計画をベースにし、平成27年の10月に益田市の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。その中には4つの基本目標があり、それぞれの担い手を育成していくこと、人材の育成確保が何よりも重要であるということのを再認識し、平成28年の3月には、「益田市ひとづくり協働構想」を策定しました。その中においては“広く次世代を担う人材育成”、そして“職業仕事・産業を担う人材育成”、“地域の担い手の育成”、この3つの人材育成をそれぞれ関連させて、また行政や学校だけではなく、地域や企業さまざまな団体の方々と連携して行っていくという方向を示したところです。

今日おいでの皆様方は、まさにその3本目の柱であり、地域の担い手に当たられる方ではないかと思っております。そういった方々が今日ここにお越しいただき、交流を深めていただくということは、大変意義深いことであると思っております。

今日のメニューを見ますと、島根県のさまざまな特産物をご用意しているようでございます。ぜひ料理に舌鼓を打っていただき、お話に花を咲かせていただければと思っております。乾杯は、益田市の特産である柚子の果汁と蜂蜜を使った「ゆずっこ」という飲み物で行なっていただきます。このゆずっこ、価格はリーズナブルですが、最近では旅館などのウェルカムドリンクでも採用が増えてきていまして、注目されている飲み物でございます。是非今日は島根県益田市からの歓迎の気持ちを込めて、このゆずっこを皆さまに飲んでいただきたいと思っております。

全国の地域づくりの機運が、この全国研修交流会を通して広がるとともに、明日の全体会へと繋がることを祈念し、乾杯！



閉会あいさつ

とよかわの未来をつくる会 会長 山本 宏史



皆さん、こんばんは。交流会、お疲れ様でした。先ほどの石見神楽はいかがでしたでしょうか。舞っていただいたのは、私の住んでいる豊川地区に拠点を置いて活動している保存会の皆さんです。日本全国いろんな地域に神楽がありますが、地域によって神楽の演目や踊り方、お囃子、衣装などの違いがあるようですので、初めて見る方も、それぞれの地元で神楽を楽しんでおられる方も、初めての土地の神楽を見られると、新鮮で楽しんでいただけたのではと思います。

さて、昨日から今日にかけ、分科会、そしてこの交流会と、皆さん大変お疲れ様でした。特に県東部の分科会に参加された皆さんは、長距離の移動で大変お疲れになったのではと思います。

この全体交流会、皆さんいかがでしたでしょうか。限られた時間の中で開催することになりましたので、まだ食べ切れてないとか飲み足りないとか、会話がし尽くせないとか、いろんな思いを持っている方いらっしゃると思います。その辺は大変申し訳なく思っています。最初の乾杯のご挨拶で益田市長さんもおっしゃられたように、食材についてはできるだけ島根県産を使うようにしており、お酒の方も県内の多くの酒蔵さんからお酒を取り寄せさせていただきます。先ほど試飲コーナーを見させてもらったところ、すごい盛り上がりで、大変良かったと思っています。これがおもてなしになったかは分かりませんが、島根の味を楽しんでいただければ幸いです。

この島根大会も、いよいよ明日の全体会で終わりになります。今回の島根大会では、「ご縁でつながる地域づくり～島根からはじまる新たな物語～」というテーマを掲げております。このご縁というのは非常に大きな力、不思議な力を持っている言葉だと思います。ぜひ皆さん、地元にお帰りになられる時は、このご縁と今日の繋がりをしっかり持って帰っていただき、これからの地域活動の取り組みに活かしていただければと思います。そしてその素晴らしいご縁という言葉と繋がり、これがもし少しでも何かの形で表すことができれば、そこからまた新たな物語がそれぞれの地域で始まっていくのではと思っています。

最後になりますが、今日お集まりの皆さんの益々の御活躍と、そして料理や配膳をお世話いただいた会場スタッフの皆さまに熱くお礼を申し上げまして、閉会のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



全体会あいさつ

開会あいさつ

地域づくり団体全国協議会 会長 岡崎 昌之



皆さん、おはようございます。昨夜は久しぶりに従来のような全体交流会が開催でき、皆さま方も久々の出会いや交流を楽しまれたことと思います。

一昨日からの分科会、全体交流会、そしてこの全体会の開催につきましては、島根県知事様はじめ県庁の皆さま、開催自治体の皆さま、とりわけ現場で活動されている地域づくり団体の皆さまが、真摯にご対応いただきました。厚く御礼を申し上げます。私自身は益田市での分科会に参加し、地元の次代を担う若い方々の活躍に大変感動しました。

本大会には総務省から山越伸子地域力創造審議官、また地域活性化センターからは林崎理理事長にご出席をいただき、様々なご支援も賜り、誠に有難うございました。

私自身かなり古くから地域づくりに関わってきましたが、その経験からしますと、島根県は地域づくりの先進県だと思っています。初めて島根県に伺ったのは隠岐の島後でした。昭和50年代の初頭で、島後は当時4町村、その中の布施村のことが強く印象に残っています。人口は500人ほどで、故山口貞美村長が村の歴史をとうとうと語ってくださったのです。布施では江戸時代から奈良県の吉野から杉の苗を持ち帰り、山に植えた歴史があるのですが、外材が入るようになり、布施の杉が売れなくなった。そこで山口村長は都市部の人に布施の杉を立ち木のまま買って貰い、生育後それを伐採した時に得た収益を折半するという仕組みを考えました。これが後の林野庁の特定分収造林制度ですが、その先鞭を隠岐の布施村が作ったのです。都市の力を村へ、村の魅力を都市へという都市農村交流を、昭和50年前後から考え、地道に展開しておられました。

今回、隠岐島前の海士町でも分科会を開いていただきました。隠岐島前高校では入学志願者が減少し、住民も島外流出する事態となり、その状態を立て直すため、山内前町長が自らの給与、町管理職の給与も大幅に減額することで住民に決意を示し、高校の再生と海士町の地域づくりの道筋を指し示しました。実際に東京や大阪、海外からも隠岐島前高校を目指す「島留学」が起こったわけです。現在では高校生だけでなく、大人の島留学を通して移住者も受け入れることに繋がっています。この試みが、現在、全国の小規模高校の再生に繋がる「地域みらい留学」の原点となっているのです。

旧吉田村（現雲南市）でも、大手製鉄会社と提携し、この村で古くから伝承されてきた「たたら製鉄」の再生の試みに取り組み全国の注目を集めました。現在の雲南市も小規模多機能自治、地域自治組織の試みで全国の先頭を走っています。もう少し西の邑南町は子育て支援、移住者受入れで成果を挙げています。山間部ながら合計特殊出生率が2.46と聞いたことがあります。合併前の旧石見町では、ハーブ栽培等で公園整備をする「香木の森」事業を実施し、これに魅せられた関西からの若い女性がそれに参加し、移住してきました。山間部でのこの出生率は、こういう以前からの取組の延長線上にあるものではないかと考えます。

このように島根県の地域づくりの取組は全国をリードし、それが脈々と現在に繋がっていると思います。

地域づくり団体の皆さんにおかれましては、地域の価値を大切にしながら、足元の集落や組織を基点にし、外と手を結び合う、足元を固め連携を深める、こういう視点を大切にしながら地域づくりを進めていただくことが重要だと考えています。全国協議会も今回のような全国大会、各地での地域コーディネーター研修会などを通じて、ともに進んでいきたいと考えております。

歓迎あいさつ

島根県知事 丸山 達也



島根県知事の丸山でございます。

本日は、全国から多くの皆様のご出席のもと、「第39回地域づくり団体全国研修交流会島根大会」がこのように盛大に開催されますことを、お喜び申し上げます。

また、ご臨席いただいたご来賓の皆様方におかれましては、日頃より県勢の発展に格別のご尽力を賜っておりますことに厚くお礼申し上げます。

本日の会場である島根県の芸術文化センター「グラントワ」は、ホールと美術館の複合施設で、日本を代表する建築家の1人、内藤廣先生の設計によるものです。

現在、内藤廣先生の企画展を開催しており、「ビルドとアンビルド 建ったものと建たなかったもの」つまり、コンペに勝ち抜いて建物になったものと、勝ち抜けなくて模型で終わったものを2つまとめて一堂に見ていただけるという企画展になっております。建ったものは資料が残りますが、建たなかったものは残っていない場合もありますので、内藤事務所にご協力いただいて実現できた企画展でございます。

内藤先生の作品づくりは、赤鬼と青鬼というフレーズで象徴されています。赤が情熱、青が理性、情熱と理性その相克、せめぎ合いの中で様々な作品を創り上げていくのです。

地域づくり活動もまた、情熱と現実を見据える理性、その組み合わせが大事だと思いますし、ビルドとアンビルドのように、うまくいくこともあれば、うまくいかないこともある中で、成功と失敗から学んで前に進んでいくということではないかと思えます。

お時間が許せば、ぜひ内藤廣企画展に立ち寄ってみてください。

さて、島根県では、「人口減少に打ち勝ち、笑顔で暮らせる島根」を目指し、県民の皆様と共に総力を挙げ、様々な取り組みを進めております。地方の地域力低下が言われて久しいですが、本県では、様々な地域づくり団体が県内各地で活発に活動し、協働を図りながら、地域の課題解決に向け取り組んでおられます。

今大会では、「観光」「定住」「関係人口」などのテーマによる、8つの分科会で各地域の特色ある取り組みを皆様に体験いただきました。どの分科会にも共通しておりますのは、地域を元気にしたいという思いであり、住民の皆様が主体的に取り組んでいるという点でございます。こうした点を各分科会のプログラムの中で感じていただけたのではないのでしょうか。

3日間にわたる大会の中で、ご自身の地域での今後の活動につながるものを一つでもお持ち帰りいただくことで、この島根大会の意義があると考えております。今大会が皆様の地域における課題解決の一助になることを心から願っております。

結びに、島根大会のテーマである「ご縁でつながる地域づくり～島根からはじまる新たな物語～」のとおり、本大会で結ばれたご縁が、新たな地域づくりへの契機となることを祈念いたしますとともに、本日までご参加の皆様方の益々のご活躍とご健勝をお祈りいたしまして、歓迎の挨拶といたします。

来賓あいさつ

総務省地域力創造審議官 山越 伸子



総務省地域力創造審議官の山越と申します。本日は全国から多くの方々のご参加を経て、「ご縁でつながる地域づくり～島根からはじまる新たな物語～」とのテーマで島根大会がこのような素晴らしい会場で、このように盛大に開催されますこと、まず心からお慶び申し上げます。そして本日お集まりのご参加の皆さまにおかれましては、各地域でさまざまな課題を解決に資するべく、地域づくりの活動にご尽力いただいておりますことを、この場を借りてお礼を申し上げたいと思います。

一昨日、昨日と、分科会におきまして非常に熱心なご議論がなされたとお聞きをしております。私も昨日全体交流会で直接お話をお聞きする中で、皆さまの熱気とエネルギーを直接肌で感じました。また皆さまのさまざまな活動が多様な全国の地域の暮らしを支えるところに非常に大きな役割を果たしているのだと、改めて認識したところでございます。この3日間の議論の中で、またご縁でつながれた皆さまのさまざまなネットワークがまた全国の取り組みに役立てていただければと期待をするところでございます。

さて、政府といたしましては、地方創生という立場で「デジタル田園都市国家構想」のもとで、特に都市から地方に人の流れを作る、あるいは地域づくりの担い手を確保するということを柱として取り組ませていただいております。

総務省として推進をしております「地域おこし協力隊」は、制度創設以来15年経ちまして、今全国で隊員数が6,447名、受け入れ自治体も1,116自治体となったところでございます。任期終了後も約65パーセントの方々在地元に定住されているなど、地域活性化の大きな力となっていると考えております。皆さまが活動されている地域でも身近に感じていただくことが多いと思いますし、連携して取り組まれている団体も多いかと思っております。令和8年度までに、この現役隊員数を1万人まで増やすことを目標に、私どもとしてもさらに各自自治体における取り組みの支援をしていく予定でございます。

またこの地域おこし協力隊のように、移住まではされなくても特に最近、都市部の民間企業社員の即戦力を活用するための、「地域活性化起業人」という取り組みを進めておりますが、ここ数年、コロナ禍の影響もありましたが、かなり大きく増加しており、ご活躍いただいております。地域活性化に寄与していただくことも重要ですが、将来的なコアな関係人口として引き続きその地域づくりにつながっていただくという意味でも重要だと思っております。これについてもさらに強化をしていきたいと思っております。

また、皆さまのさまざまな取り組みの中で、普段から連携していただいております地域で暮らす人々が中心となった「地域運営組織」の取り組みであるとか、集落支援員などにより「集落ネットワーク圏」の形成など、地域の暮らしを守る取り組みについても引き続き支援をしていきたいと思っております。

それから、令和2年度に創設された制度で「特定地域づくり事業協同組合」というものがございます。これは、地域の仕事を複数組み合わせ、年間を通じて仕事を創出する、マルチワークで地域の担い手を確保する、そういう政策になります。これまで全国94市町村で91組合が設立をされておまして、地域の担い手確保の受け皿という機能もございますので、これについても普及をしてみたいと思っております。

今般のコロナ禍を経まして、地方の暮らしへの関心が非常に高まっており、移住への関心も非常に増えております。私どもで統計的に取っておりますデータによりましても、令和4年度が過去最高の相談件数になる見込みとなっております。こういう機会をチャンスとして、総務省としても全国の皆さまの地域づくりの取り組みがさらに発展するように一緒に取り組んでまいりたいと思っております。

最後に、本大会の開催にあたりましてご尽力をいただきました岡崎会長、島根県大会実行委員会をはじめとする地域づくり団体の皆さま、島根県内の関係市町村の皆さまに、心から感謝を申し上げますとともに、本大会の成功にご参加いただきました皆さまのご健勝ご活躍を祈念いたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。

来賓あいさつ

一般財団法人地域活性化センター 理事長 林崎 理



活性化センター理事長の林崎でございます。昨夜の交流会の盛況ぶり、先ほど岡崎先生もしみじみとおっしゃっていましたが、本当に胸を打つものがあり、昨年の長崎の取り組みがその道を開いていただいたわけでありまして、そして今年は島根の益田市で全体会を盛大に行ったわけでありまして。

かつてはこの全体会で、千人を超えるような地域づくりの関係者の方々が全国から集まっていた、そういう時期もあったと聞いております。その後コロナという時代も乗り越え、こうしてまた全体会が盛大に行われ、来年は宮崎がこれをさらに引き継いで、1歩1歩大きなものになっていけばと思う次第です。

私どもの地域活性化センターは、昭和60年に設立されました。全地方公共団体の皆さま方、経済界の有志の皆さま方で出捐をしてできた財団で、38年になりますが、「地域づくりは人づくり」ということで、当センターには全国の自治体から55人の研修生の方が2年間、それぞれ任務を背負って来ていらっしゃいます。その方々がいろいろなセミナーや研修会などに参加をして勉強して、大きくなってそれぞれの地元の自治体に帰っていき地域づくりに邁進していく、こういった取り組みをしてきておりまして、各地で当センターのOB・OGが活躍しているわけでありまして。これからも私どもは地域づくりの人材育成を中心にしっかりと頑張っていこうと考えております。

また先ほど会長からも紹介がありましたが、私どもは地域づくり団体全国協議会の事務局を担うとともに地域づくり団体の支援をさせていただいております。今年度の活動の一端を申し上げますと、5月には昨年度に引き続いて総務省と連携し、地域づくり団体、都道府県協議会会長及び都道府県地域づくり団体担当課長会議を開催いたしまして、あのNPO法人グリーンバレーの理事長大南信也様による特別公演の後にトークセッションを行い、議論を深めたところであります。またこの島根大会の実行委員長であります小笠原勝司様から、今大会に向けた活動の報告もいただきました。当センターとしても、これからはしっかりと全国の地域づくり団体の活動を支援してまいりたいと考えております。

今日これから分科会報告ということで私も楽しみにしております。こうしてコロナを乗り越えて各地の地域づくりに頑張っている皆さまがここに一堂に集まり、お互いの研究成果なども発表し合うということですから、皆さま方もこの貴重な場で大いに意見交換をしていただき、明日からのそれぞれの地域づくりに邁進する力としていただきたいと思います。



地域を愛し行動し誇りに思えるまちづくり 今日も明日も10年後もずっとえ～ひだ（比田）

●開催概要

第1分科会では、人口減少社会の中で、地域の若手を中心に立ち上げた地域運営組織「えーひだカンパニー株式会社」の取組紹介やUIターン者の活動紹介、意見交換を実施し、自立した地域づくりを目指す団体の取組に触れて頂くとともに、ワークショップ等を通して、参加者の皆さんから地域づくりのヒントをいただき、学び合う時間を共有しました。

また、団体が運営している産直市場の見学や実際のどじょうすくい体験などを行い、全国1200社を超える鉄の神様 金屋子神社の総本宮参拝、庭園日本一と言われる足立美術館の見学など全国の方々と交流を行いました。



HPはこちら



コーディネート団体 **えーひだカンパニー株式会社**

●分科会での様子

分科会スケジュール

1日目 11月10日(金)

- 13:00 JR安来駅集合出発
- 14:00 オリエンテーション(比田交流センター)
- 14:45 どじょう掬い体験(比田交流センター)
- 15:25 金屋子神社参拝
- 16:20 比田活性化プロジェクトの説明・意見交換(比田交流センター)
- 18:00 交流会 比田の食でおもてなし(井々)
- 21:00 宿泊先到着(亀高温泉玉峰山荘)

2日目 11月11日(土)

- 9:20 UIターン者の声・意見交換・ふりかえり(比田交流センター)
- 11:00 比田太鼓披露(えーひだ市場)
- 11:15 えーひだ市場で自由行動
- 11:45 昼食(井々)
- 13:00 足立美術館鑑賞
- 15:01 特急スーパーおき乗車(JR安来駅)
- 18:00 全体交流会開始



安来駅にてお出迎え



どじょうのから揚げ、安来和牛串焼き



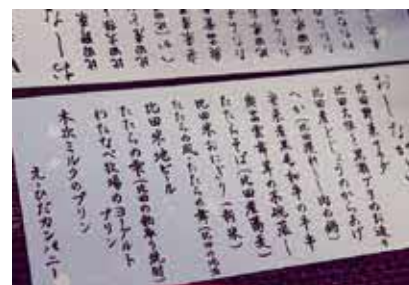
どじょう掬い踊りで一気に和やかに



地酒はいかがでしょうか！



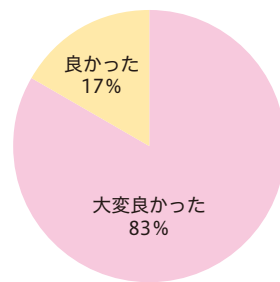
御祈禱中。宮の櫺造りに感動！



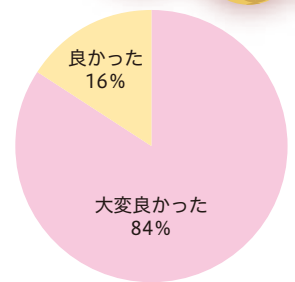
心を込めて手書きのお品書き

参加者アンケート紹介

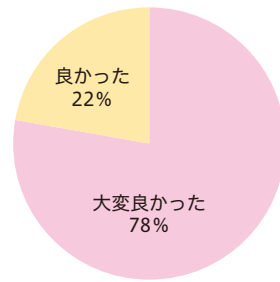
- ◆どじょう掬い体験は初対面の方ばかりで緊張していましたが、緊張がほぐれました。
- ◆金屋子神社では、インバウンドウケがとてもありそうな宮司さんの話だった。ふいごの様子など見たいと思ったので視覚資料（VTRの視聴）などあればもっと充実したいと思います。
- ◆えーひだカンパニーの説明についてプロジェクトを立ち上げ、様々な世代でワークショップを開き全員を巻き込んでいくことは、非常に大事だと思った。自分事として意識することが必要。
- ◆交流会では、全国様々な地域の人とつながることができ、意見を交わせたことがよかったです。今後もこのつながりを大切にしたいです。
- ◆振り返りでは、3人のお話がとても心にひびきました。やはり地域の方々が取り込む姿をしっかりと次世代に見せる必要がありますね。
- ◆全体を通して盛りだくさんな内容で充実の2日間でした。個人的にはえー比田のみなさんと、もっと詳細にお話しする時間があればよかったです。



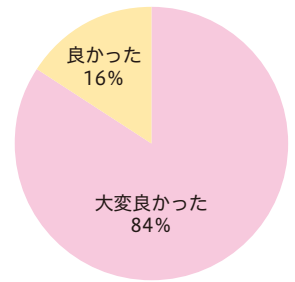
どじょう掬い体験は
いかがでしたか？



交流会はいかがでしたか？



振り返りワークショップは
いかがでしたか？



全体を通していかがでしたか？

参加者内訳 【20名】

宮崎県 4名、熊本県 2名、群馬県 1名、広島県 1名、長崎県 4名、島根県 3名、東京都 1名、
栃木県 2名、福岡県 1名、和歌山県 1名



えーひだカンパニーの社長です



みんな笑顔の「ふりがえり」



重さ当てクイズに大興奮



歓迎比田太鼓、獅子舞も登場！



「UIターシ者の声」3人の発表が心に沁みる



市場でお買い物ありがとうございました

分科会を振り返って

地域を思い行動を起こして、地域の皆で力を合わせて地域づくりを継続してきたからこそ、今回のような機会をいただき、沢山の素敵なお縁をつなぐことができました。

地域づくりは自分たちの住む地域の魅力を再発見出来る良い機会です。今回のご縁を大切に、共有した貴重な体験を今後の地域づくりに活かしていきたいと思えます。

そして今日も明日もずっと「えーひだ」なあと感じるように地域みんなで手を取り合って、楽しく地域づくりを行っていきたく思います。

市民が主役!!

松江の文化力を生かしたまちづくり

開催概要

2021年に松江市が制定した「松江の文化力を生かしたまちづくり条例」は、市民の誇りである「豊富な文化財」「伝統文化」「茶の湯文化」「生活文化」「市民とともに育む文化芸術活動」「拠点となる文化施設」「松江的景観」を松江の文化力を支える7つの柱と位置づけ、その魅力の活用と継承に官民を挙げて取り組んでいます。

第2分科会では、最初に文化芸術の力でまちを元気にしている実践者からの活動報告を聞き、続けてチームに分かれて「まちあるき×謎解きゲーム」に取り組むことにより、松江の文化についての概要を楽しく学んでいただきました。その後、実際に各分野で熱心に取り組まれている多様な文化活動の体験を通して、文化力で地域を盛り上げている人々やそのネットワーク、またそれを楽しむ市民の姿に触れていただきました。



HPはこちら



コーディネート団体 松江NPOネットワーク

分科会での様子

分科会スケジュール

1日目 11月10日(金)

- 12:30 受付開始(縁雲イベントスペース)
- 13:00 実践者とのクロストーク!
 - ・松江の文化力を生かしたまちづくり条例
 - ・ノヴィープロジェクト
 - ・不昧公とお茶文化
 - ・音楽のまちプロジェクト
 - ・子どもアートDay
- 15:45 謎解き×まちあるき
- 18:00 ジャズと地酒の夕べ(湖畔のレストラン ラシヌ)
- 20:00 宿泊先へ(松江ニューアーバンホテル)

2日目 11月11日(土)

- 9:10 集合(松江城大手前馬溜)
- 9:30 松江の市民文化体験
 - ・不昧流お茶席(二の丸中櫓)
 - ・国宝松江城天守登閣
 - ・音楽のまちプロジェクト(興雲閣)
 - ・藝体験(内中原琴保存会)
- 11:45 昼食(ぐるっと松江堀川めぐり べんとう船)
- 13:30 ノヴィーコンサート(ごうぎんカラコロ美術館)
- 14:00 全体会会場(益田市)へバス移動



オープニング@縁雲



謎解き×まちあるき(山口薬局)



実践者とのクロストーク



謎解き×まちあるき(加島茶舗)



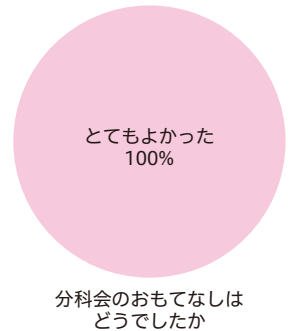
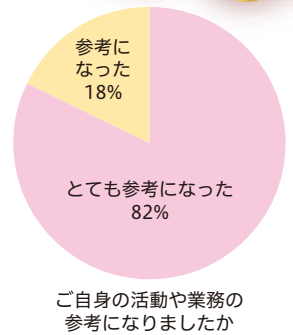
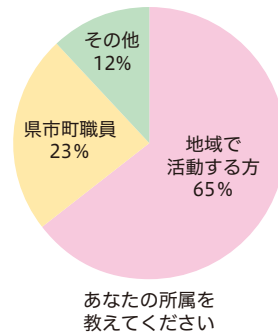
チームに分かれて謎解きゲーム



謎解き×まちあるき(カラコロ広場)

参加者アンケート紹介

- ◆文化を絆に市民同士がつながり、世代を超えて活動の場を広げている様子が伝わってきました。
- ◆市民のネットワークと自律的な活動、さらに継続的に続けようという意欲が印象に残りました。
- ◆城があるということが歴史・文化の源流となっていること、観光客目線ではない、地域の方目線でのシビックプライドを感じます
- ◆松江市素晴らしいところでした！私の地元も同じように魅力的な場所にしていきたいと改めて思いました。
- ◆地域づくりをする方と松江市役所との連携について参考になりました。クロストークでは「支援はまだまだ」とお話がありましたが、興雲閣などの会場を一般に供していること、団体の皆様といろいろ話し合える関係の構築など、勉強になります。



参加者内訳 【18名】

茨城県 1名、宮崎県 7名、群馬県 1名、石川県 1名、長崎県 2名、鳥取県 1名、島根県 1名、栃木県 1名、福井県 2名、東京都 1名



美術館レストランでジャズと地酒



不昧流お茶席体験



音楽のまちプロジェクト



鼗体験



市民が守った国宝松江城天守閣



松江城堀川遊覧

分科会を振り返って

豊かな歴史と伝統、有形無形の文化財に恵まれた松江市ですが、それは、長きにわたる市民の主体的・持続的な取り組みにより守り伝えられてきたのだということをお伝えするのが、私たちの願いでした。参加者の皆さんの感想を読んで、伝わった！と喜んでます。

企画した私たちにとっても、まちを元気にしようと奮闘する方々と改めて出会い、松江の魅力を再発見する機会となりました。この分科会の企画運営を通して市民活動団体同士や行政とのつながりがさらに広がったと感じています。

全国の地域づくり団体の皆様とのご縁に感謝し、より住民幸福度の高い地域を目指して、今回の分科会で得たネットワークを活用していきたいと思えます。

出雲神話と島根半島の 大地の恵みを感じてみよう！

●開催概要

2017年に日本ジオパークに認定された島根半島・宍道湖中海ジオパークは、東西約65kmの長い島根半島をはじめラムサール条約登録湿地に指定されている宍道湖・中海、そして出雲南部エリアにある立久恵峡や沖積平野でもある出雲平野などの地質をはじめ生物生態系に恵まれ、神話が根づくジオパークです。

第3分科会では、日御碕島根半島・宍道湖中海ジオパークの魅力や地域の歴史・文化に触れていただくとともに、地域資源の活用や保全活動などジオパークを通じた地域活性化の取組を全国に発信する目的で実施しました。

北前船の寄港地であった鷺鷥地区の集落活性化の様々な取組紹介や、地域資源を活かした藻塩づくりを実際に体験いただきました。

また、日御碕灯台や稲佐の浜、出雲大社などガイドする中で、出雲の地域や文化に根づく神話や伝承を体感していただきました。



HPはこちら



コーディネート団体 **出雲国ジオガイドの会**

●分科会での様子

分科会スケジュール

1日目 11月10日(金)

- 13:00 JR出雲市駅 北口パスターミナル集合
- 14:00 日御碕ジオガイド
- 15:30 鷺浦げんきな会の活動報告と
藻塩作り体験
- 18:00 宿泊先(出雲ロイヤルホテル)
- 18:30 交流会
出雲神楽
各団体自己紹介

2日目 11月11日(土)

- 9:30 出雲大社 参拝
- 10:30 神門通り 自由散策
- 11:40 昼食(島根ワイナリー)
- 12:40 全体交流会へ移動
道の駅 ごいせ仁摩
道の駅 ゆうひパーク
バス移動中 ご当地ガイド
- 18:00 全体交流会開始



日御碕コミセン



藻塩づくり



日御碕コミセン



藻塩づくり



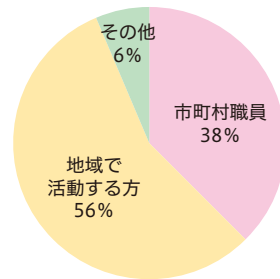
鷺浦コミセン



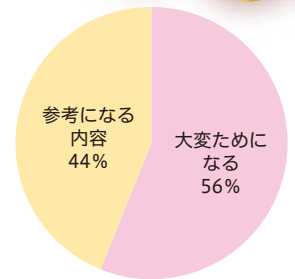
藻塩づくり

参加者アンケート紹介

- ◆ 神話や伝承が地域の文化に根付いていることをジオガイドさんの皆さんからのお話や現地探索を通じて肌で感じられました。
- ◆ 公民館や学校などと連携して子供たちのふるさと学習やジオ探究などの機会を増やして貰いたい。
- ◆ 地域コミュニティに活かしたい。
- ◆ 初めての出雲でしたが神話・自然などの色々な資源があるなあと思いました。
- ◆ 県外の方のみならず、県内の人にも体験してほしいと思いました。
- ◆ 限界集落といえる鵜鷺地区の再生への取り組みを聴けてよかった。
- ◆ 藻塩作りの時間が楽しかった。高齢者の方々が地域活性化への努力に頭が下がった。
- ◆ 地元の人には気づかない地域の宝を見つけて活かして事例が見ること知ることがとても参考になった。
- ◆ 地域に眠る魅力を発見し情報を地道に発信し続けることが重要だと感じた。



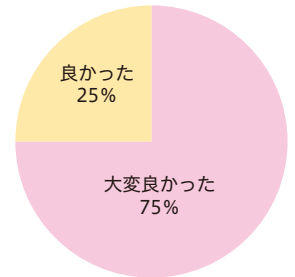
あなたの所属を教えてください



第3分科会の内容は今後の活動の参考になりましたか？



藻塩づくり会場



分科会のおもてなしはどうでしたか？

参加者内訳 【19名】

沖縄県 1名、宮崎県 5名、熊本県 1名、群馬県 1名、香川県 1名、埼玉県 1名、青森県 1名、長崎県 5名、島根県 2名、東京都 1名



藻塩づくり



出雲大社・神門通り



藻塩づくり



出雲大社・神門通り



分科会交流会



島根ワイナリー

分科会を振り返って

地域づくりと名の付く研修に出雲国ジオガイドの会として初参加させて頂きました。

分科会の運営団体をやるにあたっては、私達の活動をご覧いただくとともに、出雲市内で地域を元気にしようと頑張っている方たちと、全国の同じ境遇の方たちのご縁を結びたいと思いました。

この大会に参加させて頂き、ジオガイドの私たちも参加者のみなさまから沢山の刺激を頂きました。これからのガイドツアーを通して地域の皆さんをはじめ、島根に来てくださった方々に人と人のつながりの大切さを伝えて行きたいと思います。

攻めの定住施策 (ビジネスプランコンテストによる人材誘致)

開催概要

江津市ビジネスプランコンテスト (Go-Con) は、江津にもともとある価値を地域に想いをもって小商いに変換できる人を呼び込み、発掘することで、未来に向けて革新するチカラとそれを応援する風土を根付かせて「創造力カルチャー」をつくることを目的としたものです。

第4分科会では、Go-Conによる「まちづくり」の考え方と、Go-Conから始まり江津市で起業された方々の体験談、「Go-Conの今とこれから」というテーマで意見交換やパネルディスカッションを実施し、人口減少の過疎地域における人材誘致・発掘にフォーカスした施策とその実績を共有し、意見を交わしました。

また、官民連携で再生プロジェクトに取り組む有福温泉町に宿泊いただき、まちづくりの取り組み過程を見て、体験していただきました。



HPはこちら



コーディネート団体 NPO法人てごねっと石見

分科会での様子

分科会スケジュール

1日目 11月10日(金)

- 13:00 JR江津駅集合
- 13:20 江津市副市長より歓迎の挨拶(パレットごうつ)
- 13:30 江津市ビジネスプランコンテスト(Go-Con)の紹介
- 15:10 起業している過去のGo-Con出場者の紹介①
SUKIMONO株式会社 代表取締役 平下 茂親 氏
- 16:25 有福温泉まち歩き
- 17:00 宿泊先へ(有福温泉各宿泊施設)
- 17:30 夕食(よしだや)
- 18:30 パネルディスカッション(よしだや)

2日目 11月11日(土)

- 9:15 起業している過去のGo-Con出場者の紹介②
特定非営利活動法人 里山子ども園わたぼうし
園長 盆子原 拓 氏
- 11:20 産直市でお買い物など(道の駅サンピコごうつ)
- 12:00 昼食(風のえんがわ)
- 13:00 グループワーク(まとめ/振り返り)
- 14:00 バス移動
- 18:00 全体交流会開始



全体集合写真(里山子ども園わたぼうし)



Go-Con出場者の話を真剣に聞く参加者



オリエンテーションと参加者自己紹介



有福温泉振興会 川中会長によるご当地紹介



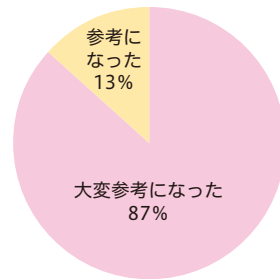
SUKIMONO株式会社 平下代表のお話



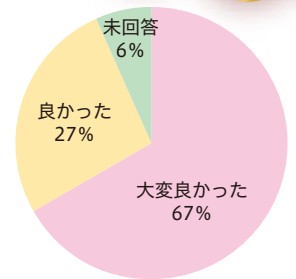
温泉旅館の大宴会場で乾杯!

参加者アンケート紹介

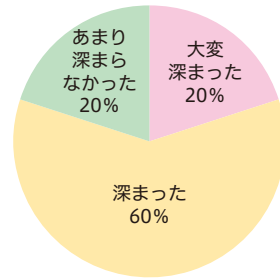
- ◆自分自身がやりたいこと、やってみたいことを考えられるようになった。いつまでもプレーヤーであり続け、楽しみたいと思う。
- ◆まず第一に自身が楽しんで地域づくりに参加するという気持ち。行政支援のあり方、伴走、柔軟性が大切。
- ◆「小商い」やりたいことを実現する、それをサポートしてくれる体制がしっかりできているし、役所も前向きと一緒に考えてくれるので次から次に新しいことが生まれていくんだと思いました。単純ですが皆さんの笑顔が大変印象に残っています。
- ◆Go-Con、てごねっと、起業家のお話、全てが最高でした。交流の場がもう少しほしかった。
- ◆夜なべ談義がほしかった。
- ◆好きなことをにこにこして活動しているからこそ人を引きつける江津流、大変参考になりました。
- ◆勇気と情熱でお腹が一杯になりました。



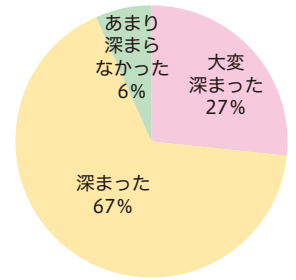
分科会の内容は今後の参考になりましたか？



分科会のおもてなしはいかがでしたか？



分科会地域の方と交流が深まりましたか？



他参加者との交流が深まりましたか？

参加者内訳 【15名】

宮崎県 2名、埼玉県 1名、石川県 1名、長崎県 4名、栃木県 1名、兵庫県 5名、東京都 1名



地元産食材を使ったイタリア料理に舌鼓



園庭で保育園児と一緒に焼きマッシュマロ



大白熱のパネルディスカッション！



道の駅サンピコごうつの地場特産品コーナー



里山子ども園わたぼうし 盆子原園長のお話



振り返りワークショップで目標を明確化

分科会を振り返って

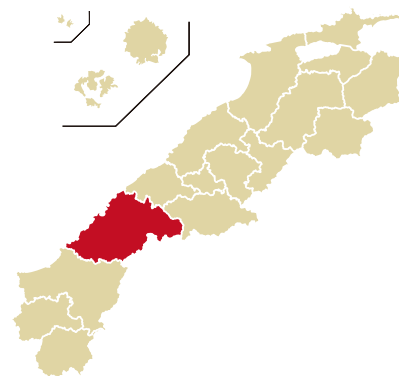
ビジネスプランコンテスト（Go-Con）を機に江津市で起業された方々との意見交換や、有福温泉町における官民連携の再生プロジェクト等をご案内する中で、新たなものと古いものの融合により生まれる新鮮で情緒あふれる町並みや、いきいきと楽しみながらまちのために全力を注ぐ大人たちを通して、情報のみに頼らず生で見て、肌で感じることの大切さを体感いただけたのではないかと考えています。完成した街は全国至るところで見ることができますが、江津市では、今まさにつくっている段階・過程を見ることができます。他では味わうことのできない雰囲気などを体感しに、皆さんぜひ江津へお越しください。

支えあう、いま・福のある里づくり

●開催概要

第5分科会では、今福まちづくり委員会を中心に、自治課題を処理する今福自治振興会・高齢者の健康等を推進する福寿会・全体を統括する今福まちづくりセンター（旧公民館）が連携し、住民の自助・共助・公助を推し進めながら地域活動を持続的に展開する今福地区のまちづくりの組織体制や、地域からスーパーが無くなったことをきっかけに、農福連携を目的に、まちづくり委員会が月2回開催している「今福産直もやい市」、高齢者の生きがいづくりと遊休農地の解消を目的で始めた、さつま芋とシャインマスカット作り、もやい市から発生した市内大学生と地域の小中学生の交流学习の場、生活支援のための「買物バス」や「あいのりタクシー」等の取組のきっかけと現状について紹介し、意見交換を行いました。

また、ウエスタンライディングパークでの乗馬体験や、まぼろしの広浜鉄道今福線の見学などを通して、全国の方々に今福を体感いただきました。



コーディネート団体 今福まちづくり委員会

●分科会での様子

分科会スケジュール

1日目 11月10日(金)

- 13:00 浜田駅集合
- 13:30 活動概要説明・意見交換
(今福まちづくりセンター)
おもてなし…茶楽の会、ゆるり
- 16:30 宿泊チェックイン
- 18:30 分科会交流会【金城観光ホテル】
おもてなし…石見神楽、笑舞会
- 20:30 夜なべ談義(希望者)

2日目 11月11日(土)

- 10:00 ライディングパーク引馬体験
- 11:00 広浜鉄道今福線遺構見学
- 12:30 昼食(ゆうひパーク浜田)
- 14:30 全体交流会へ移動
- 18:00 全体交流会開始



研修活動紹介



懇親会の様子



研修会場で茶楽の会会員と保護者世代女性組織ゆるり会員による抹茶のおもてなし



懇親会集合記念写真



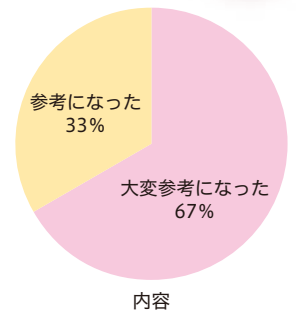
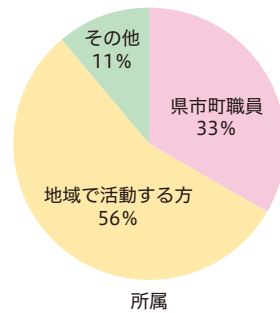
研修会場茶楽の会と保護者世代女性組織ゆるり会員による抹茶のおもてなし



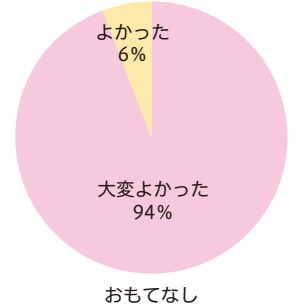
懇親会神楽余興記念撮影

参加者アンケート紹介

- ◆今福まちづくり委員会の活動が大変素晴らしく勉強になりました
- ◆神楽などの伝統と高齢社会に対応する取組、農福連携、市民と行政の関わりなどを一体化した組織活動の在り方を学べてよかった
- ◆地域づくりは仲間づくり、改めて実感しました
- ◆全体を通して「おもてなしの心に溢れた、気持ちのよい分科会でした。本当にありがとうございました
- ◆今福まちづくり委員会が地区全体を巻き込み、組織化して課題や実情に応じた取組をしている事に驚きました
- ◆まちづくり委員会が一つの自治体みたいで、取組みの大きさ、細かさに驚いた
- ◆石見神楽が圧倒的でした。すごい!!
- ◆懇親会に地元の方々が多数参加してくださり、一生懸命歓迎してくださっている気持ちがわかった。



保護者世代女性組織ゆるり会員と作成した茶菓子“福栗”



参加者内訳 【19名】

宮崎県 7名、熊本県 2名、香川県 1名、青森県 1名、石川県 1名、長崎県 3名、島根県 3名、東京都 1名



懇親会余興笑舞会出演された皆様



視察幻の広浜鉄道今福線第一下府川橋梁



懇親会余興石見神楽大蛇



早朝より保護者世代女性組織ゆるり会員による茶菓子の作成



視察研修馬牧場での乗馬体験



抹茶のおもてなしをされた茶楽の会の皆様

分科会を振り返って

全国の地域づくり関係者と意見交換ができて今後の取組の参考になりました。

分科会の新たな気づきやつながりを活かし、これからの今福まちづくり委員会の取組を進化させていきたいと考えています。

今後も“仲間づくり”を大切にしながら、幸福感度100%を目指して「支えあう、いま・福のある里づくり」をいっそう進めていきたいと思っています。

関係人口との協働による 江の川鐵道と新たな地域づくり

開催概要

第6分科会では、5年前に廃線となった三江線の鉄道資産を活かして地域活性化に取り組む地域と、関係人口（鉄道ファン→ボランティアスタッフ）との協働で成り立つNPO法人江の川鐵道のこれまでの取組や課題を紹介し、参加者の皆さんと意見交換、トロッコの乗車などを行いました。

また、邑南町内の他団体（はすみ振興会、久喜銀山ガイドの会、あすな地区応援隊）のまちづくりへの取組紹介や、江の川鐵道が運行するトロッコ列車への乗車、日本酒の酒蔵見学、久喜銀山精錬所跡や間歩のガイド見学など座学と現地体験を織り交ぜながら、邑南町羽須美地域を体感いただきました。

参加者の皆様とコミュニケーションを取れる場を意識的に多めにし、具体的な改善策、参加者の皆様が取り組みに対しどのような考えを抱かれたのか等深い議論を行い、参加者の皆様からもご好評頂きました。



HPはこちら



コーディネート団体 **NPO法人江の川鐵道**

分科会での様子

分科会スケジュール

1日目 11月10日(金)

- 12:00 JR広島駅北口集合
- 13:30 大朝IC合流
- 14:30 トロッコ乗車体験(宇都井駅鐵道公園)
- 16:30 NPO法人江の川鐵道活動紹介
(口羽公民館)
- 18:00 分科会交流会(口羽公民館)
- 20:00 宿舎先へ(コイサイド/ゲストハウスmikke/
カフェ&ベッドうづい通信部)

2日目 11月11日(土)

- 8:30 朝食(はすみ交流センター)
- 9:00 活動紹介・意見交換
(はすみ交流センター)
- 11:15 阿須那地区街並み散策
- 12:15 昼食(久喜林間学舎)
- 12:40 国指定史跡久喜銀山ガイド
- 14:10 道の駅瑞穂
- 14:40 全体交流会へ移動
- 18:00 全体交流会開始



トロッコ乗車体験



江の川鐵道活動紹介



交流会



交流会



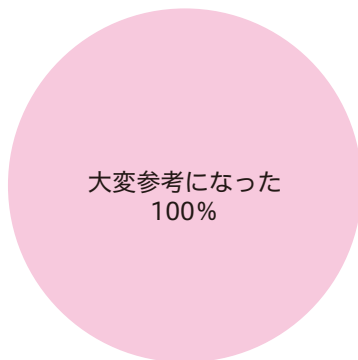
活動団体紹介



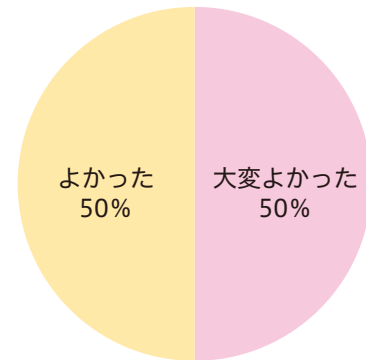
活動団体紹介

参加者アンケート紹介

- ◆ Q. 分科会の内容は今後の活動の参考となりましたか？
 - A. 皆さんの熱い思いにふれさせていただき、自分にできることは何だろうと考えるきっかけになりました。
- ◆ Q. 分科会のおもてなしは如何でしたか？
 - A. 地域の食文化にふれさせていただいたのと、宿泊させてもらった施設も手作り感満載でおもしろかったです。
- ◆ Q. その他ご感想等あればご記入ください。
 - A. 地域づくりは中心になる人の思いと、協力、応援する人達の和（輪）だという感じを強くしました。



分科会の内容は今後の活動の参考となりましたか？



分科会のおもてなしはいかがでしたか？

参加者内訳 【17名】

宮崎県 1名、熊本県 1名、香川県 1名、滋賀県 1名、石川県 1名、長崎県 3名、島根県 5名、東京都 2名、福岡県 1名、北海道 1名



口羽駅



口羽駅



阿須那地域散策



阿須那地域散策



久喜銀山



久喜銀山

分科会を振り返って

当法人の活動はボランティアスタッフの助けがあって成り立つものです。その方々の輪をどのように広げていくのか。あるいは全くの収益無しには成り立ちませんから、それを得る為の手段など、様々な議論が出来ました。

参加者の皆様が取り組まれる活動についても、深く伺う事ができ、それに対する我々の意見や、どのような受け止め方をするのかなど、それぞれ前に進む為に必要な情報の共有ができたのではないかと振り返ります。

分科会で生まれた様々な方との新たなご縁を、今後の活動に繋げていきます。

「ひとが育ち輝くまち益田」から全国へ

●開催概要

第7分科会では、ひとづくりをすべての施策の中心に置く益田市の取り組みと、地域自治組織「とよかわの未来をつくる会」のひとづくりによるまちづくりの取り組みを説明し、持続可能な地域づくりのあり方について意見交換を行いました。

2日目は、中高生の地域活動グループ「とよかわっしょい」の活動紹介と卒業生との意見交換、自分達で整備した移住者用お試し住宅「とよかわの家」の見学や地域の有志による「お茶プロジェクト・和茶茶」によるお茶のふるまい。地区の有志で遊休農地を整備し市内の親子活動講座と連携して活用している「フルーツガーデン」の見学と実際に開催されていた缶パフェ作りの講座等を体験いただきました。

また、令和5年4月にオープンした歴史文化交流館を見学し、日本遺産「中世日本の傑作益田を味わう」の説明や市内散策を通して、益田の歴史・文化を体感いただきました。



HPはこちら



コーディネート団体 とよかわの未来をつくる会

●分科会での様子

分科会スケジュール

1日目 11月10日(金)

- 12:00 グラントワ集合
- 13:10 益田市説明
- 13:50 豊川地区の紹介(映像)
- 13:55 豊川地区の説明
- 14:45 質疑応答
- 15:40 グラントワ施設見学・企画展見学
- 18:00 分科会交流会ピュッフェスタイル
(MASCOS BAR&DINING)
各自宿泊

2日目 11月11日(土)

- 9:20 豊川小学校交流スペース他室内見学
- 9:35 とよかわっしょい!! 活動紹介
- 10:00 ひとまちカレッジ活動見学
(パフェをつくろう!)
- 10:30 フルーツガーデン・とよかわの家見学
- 11:20 お茶プロジェクト活動紹介(お茶ふるまい)
- 12:10 昼食サムライ弁当(萬福寺)
- 13:10 歴史文化交流館(日本遺産説明・館内見学)
- 14:00 日本遺産散策
- 18:00 全体交流会開始



益田市取り組み説明



豊川地区取り組み説明



質疑応答



分科会スタッフ



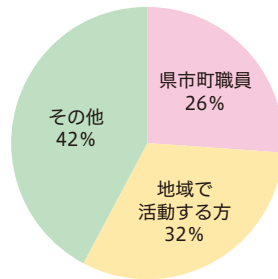
分科会交流会風景



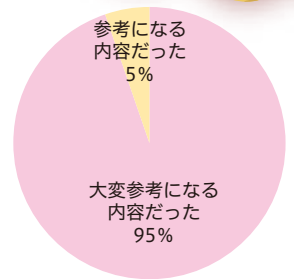
交流会歓迎イベント(和太鼓演奏)

参加者アンケート紹介

- ◆10年にわたり、地道に活動し次世代に継ぐ仕掛けづくりを周りの方々がしっかりフォローして、人材育成の基本を見せていただいたことに感謝します。
- ◆子どものやってみたい→できた、の体験の積み重ね、郷土愛、支える大人達、その仕組みを後押しする行政の方々、包括的な視点の大切さも改めて感じました。
- ◆地域活性化の事例も良かったが、子ども達を中心に置き人を地域で育てる環境を体験できたのは大変参考になった。
- ◆豊川地区の中高生のとりくみが大変参考になった。楽しみながら継続する取り組みがいい。



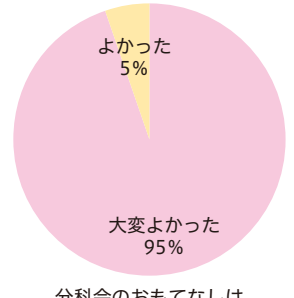
あなたの所属を教えてください。



分科会の内容は今後の活動に参考になりましたか。



集合写真（とよかわの家）



分科会のおもてなしはどうでしたか？

参加者内訳 【19名】

沖縄県 1名、宮崎県 3名、熊本県 4名、山口県 1名、青森県 1名、大阪府 1名、大分県 1名、長崎県 3名、島根県 1名、東京都 3名



とよかわっしょい!! 活動報告



フルーツ缶パフェ教室 見学



お試し住宅「とよかわの家」見学



フルーツガーデン 見学



お土産（小学生メッセージ 名刺入れ等）



全体会（分科会活動報告）

分科会を振り返って

全国の皆さんをお迎えするための準備は大変なこともありましたが、チーム豊川としての一体感を感じた時間でした。背景には、大人も子供も楽しく、自分達で主体性を持って活動している豊川地区の姿があります。ひとづくりによるまちづくりを実践する豊川地区の熱量が皆さんに届いたのではないかと思います。自分たちのやりたいことや楽しめることに取り組んだ結果が地域の課題解決につながるという視点も持続的な地域づくりに向けて重要だと改めて感じた大会でした。

離島にもっと若者の還流を

●開催概要

島根県の沖合60kmにある隠岐諸島に位置し、それぞれ自立したまちづくりを目指して、産業振興や移住施策を行ってきた島前3町村（海士町・西ノ島町・知夫村）では、時代の変化の中で新たに生まれた「人の還流」と「滞在人口」という考えのもと、自治体の壁を超え、同じ地域で協働していく環境づくりにも取り組んでいます。

第8分科会では、「#離島にもっと若者の還流を」というテーマのもと、10-20代を対象とした3か月～1年間のインターンシップ制度である「大人の島留学」を切り口に、約20名の参加者を迎えて3日間の研修を行いました。「大人の島留学」の舞台である島前3島巡り、離島で活躍する若者たちとの交流、そして参加者同士によるディスカッションを通じて、若者がやってくる／帰ってくるような魅力あるまちづくりについて、皆で理解を深めました。



HPはこちら



コーディネート団体 一般財団法人島前ふるさと魅力化財団

●分科会での様子

分科会スケジュール

1日目 11月10日(金)

- 8:45 七類港 フェリー乗り場 集合
- 12:40 菱浦港(海士町) 到着
- 12:50 昼食(島生まれ島育ち隠岐牛店)
- 14:00 (一財)島前ふるさと魅力化財団 活動概要説明
- 15:00 海士町を知るツアー
- 17:30 宿泊先到着(グランピングtadayoi, Ento他)
- 18:00 島の懇親会(海鮮処 味蔵)
- 21:00 島の2次会(@BBQハウス)

2日目 11月11日(土)

- 9:00 チャーター船 浜吉丸 乗船 菱浦港
キンニャモニャセンター
- 9:30 知夫村を知るツアー
- 12:00 昼食 海鮮丼(西ノ島町)
- 13:00 西ノ島町を知るツアー
- 15:30 意見交換会(隠岐総合開発センター)
- 18:00 全体交流会<オンライン>(離島キッチン)
- 20:00 島の2次会(スナック三休)

3日目 11月12日(日)

- 8:00 島のリラクゼーション体験
- 10:00 全体会<オンライン>(セントラル・シェアオフィス)
- 12:20 昼食&感想共有(セントラル亭)
- 14:00 自由時間(菱浦港付近)
- 15:00 菱浦港集合 フェリー乗船
- 17:55 七類港 着



離島への出発→フェリー乗船



「海士町」を知るツアーでの隠岐神社



海士町へ到着！出会いの場面



初日の交流会では、全国の地域づくりについて活発なコミュニケーションとなりました。



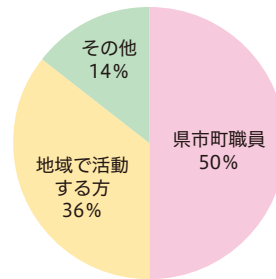
若者の還流の取り組みについてワークショップ



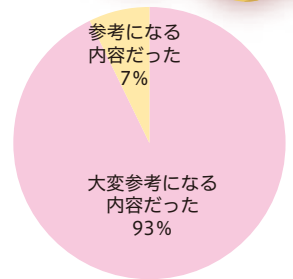
「大人の島留学生」ガイドにより「知夫村」を知るツアー

参加者アンケート紹介

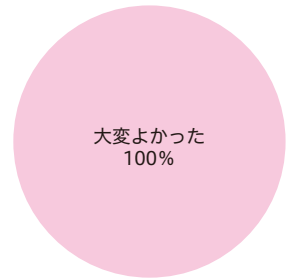
- ◆海士町の人たちには、世代、島外・島内の垣根を越えた共生のあり方が根付いていると感じた。
- ◆挨拶ひとつとっても、人に対して丁寧に活動をしていると感じた。
- ◆島前3町村が自治体を超えて連携し、取組を進めているところに感銘を受けた。
- ◆たまたま出会った方に質問しても、丁寧に熱く語ってくれた。取り組みを自分事化している人が多いと感じた。
- ◆小さな自治体で必要な一歩がまず何であるか、「海士町は若者の環流」みたいなこと。それに向かって走り出すチームが重要だと思い、同時になかなかこのチームが組めない、難しいと思った。
- ◆大人の島留学による環流人口の考え方がよかった。それだけの魅力が必要。頼りがいのある自治体があるのは町民にとってありがたいことだと私は思う。



あなたの所属を教えてください。



分科会の内容は今後の活動に参考となりましたか。



分科会のおもてなしはどうでしたか？



参加者内訳 【18名】

沖縄県 1名、宮崎県 2名、宮城県 1名、埼玉県 1名、石川県 1名、長崎県 6名、鳥取県 1名、島根県 2名、東京都 2名、栃木県 1名



知夫村では人との出会いや自然を知る「赤壁」見学。



リモート参加による全体交流会の様子。



「西ノ島町」では「大人の島留学生」から島での生活など参加者からの質問・意見交換が行われました。



グランピングでの宿泊を行い自然を満喫。



食の料理学校の生徒による島食での全体交流会。



島の儀式による参加者とのお別れシーン。

分科会を振り返って

当財団は地域づくりに日々活動をしていますが、今回の分科会で全国の方々と交流する中で、自分達の地域の事を学んでもらうというより、一緒に議論する中で、新しい学びを一緒に得られたというところがすごく大きな成果でした。

各地域でやっている取組をそのまま真似るというより、その取組の背景にある考えや思いを汲み取りながら、自分にあった取組に逆に今度落とし込んでいくという事が大事だと分科会を通して感じました。

キャラの濃い素敵なメンバーに出会えた分科会でした。ありがとうございました。

第1分科会【安来市】 えーひだカンパニー株式会社 渡邊 志朗



まず1日目はどじょうすくい体験、金屋子神社参拝、えーひだカンパニー活動紹介、分科会交流会などを行いました。安来駅で新しい出会いとご縁をいただき、喜びいっぱいワクワクしながら皆様をお出迎えすることができました。

安来市といえばどじょうすくい。どじょうすくいのアイドル「きゅっきゅちゃん」のご指導のもと、真剣にどじょうすくいに取り組んでいただき、みるみる上達されました。安来節の伝統衣装に身を包み、「あらっさっさ〜」の掛け声と共にどじょうスマイルいっぱいにて記念撮影。

本来ならば、屋外の養殖場でどじょうすくい体験を企画していたが、あいにく雨で、急遽タライの中で生きたどじょうすくいを体験。どじょうを見るのも触るのも初めての方がほとんどだったと思います。

次に全国1200社を超える、鉄の神様 総本宮金屋子神社に参拝、ご祈禱お祓い等を受けてから、宮司様から神社の沿革、特徴、社造りについて等ご説明を賜りました。

その後メイン会場に戻り、えーひだカンパニーの取り組みを説明、参加者から貴重なご意見等をいただけたことをまた今後の地域活動に生かしていきたいと思いました。

最後の交流会では地ビールで乾杯。一緒にワイワイと楽しく交流を進めました。体験で触れたどじょうも唐揚げにして、皆さんに食べていただきました（下処理済みのものを使用）。また比田の郷土料理、イノシシを使用した「へか」という鍋を堪能していただきました。いろいろな話をしながら懇親する中で、皆さんとの距離が縮まって、幸せな気持ちいっぱいな交流会となりました。来年の開催地である宮崎県の皆様に、来年の大会に向けてのPRを熱く語っていただき、来

年の交流会宮崎県大会が楽しみとなりました。

交流会の最後に、きっと今後全国各地で、どじょうすくいを広めていただきたいという期待を込めてちょこっと名人の認定証をお渡しました。

2日目はUIターン者活動紹介、意見交換、歓迎比田太鼓、えーひだ市場見学、足立美術館見学等を行いました。

UIターン者活動紹介では若い3名がそれぞれ熱い思いを持って、すごく比田のことを思っていてくれる発表を聞き、地元の私たちは嬉しく目頭が熱くなりました。

そのあとふりかえりと題してワークショップを行い、皆様からのさまざまなご意見を聞かせて頂きました。皆さんの感想から「楽しんで活動することは、継続することや地域内外の色々な人を巻き込むことにつながっていると思う」「株式会社として挑戦し続けていること、人とのつながりを大切にしていると感じ」「地域ビジョンで地域の方向性を共有していること」「40代前後の若い人が中心で始めたことが良かった」「地域づくりを継続していくためにボランティアだけでは続かない。稼ぐことも大事だということを感じた」「体験もおいしい食も〜えーひだった」

その後市場に移動して比田太鼓の演奏を見て頂き、えーひだ市場の見学、そしてお買い物等を楽しんでいただき、昼食、足立美術館の見学で行程はすべて終了いたしました。

分科会を振り返りまして、やはり地域を思い行動を起こして、それを地域のみんなで力を合わせて継続してきたからこそ、今回のような機会もいただけ、そしてたくさんの素敵なお縁をいただけたのかなと思います。今回比田地区は、比田地区にお越しいただいた皆さん、本当に地域愛に溢れる素敵なお方たちばかりでした。地域づくりは自分たちの住む地域の魅力を再発見できる良い機会だと思います。

今回いただいたご縁を大切に、共有した貴重な体験を今後の地域づくりに生かしていきたいと思えます。そして今日も明日もずっとえーひだだと思えるように、地域のみんなで手を取り合って、楽しく地域づくりを行っていききたいと思えます。

やっぱり地域づくりって楽しいなって思える3日間でした。この度比田にお越しいただきました皆様、本当にありがとうございました。また会える日を楽しみにしております。以上で第一分科会安来市えーひだカンパニーの交流会報告を終わります。ありがとうございました。

第2分科会【松江市】 松江NPOネットワーク 森山 忍



第2分科会は「市民が主役、松江の文化力を生かしたまちづくり」をテーマに、18名の皆様にご参加をいただきました。ご参加いただいた皆様ありがとうございました。

最初にコワーキングスペース「縁雲」でレセプションとクロストークを行いました。松江市内で活動する4人の実践者の方を交えてお話を伺いつつ、会場からもたくさんご意見をいただきました。

続いては、謎解きをしながらのまちあるき。4人1組で謎を解きながら、こだわりのお茶屋さんや小泉八雲のゆかりの地を巡っていくうちに、自然と松江の文化に触れていただける仕掛けとなっています。そして参加者同士の絆を深める、そんな機会になったのではないのでしょうか。

残念ながら2日間雨に見舞われましたが、松江には「縁雫」という言葉があります。縁結びの地であり、水の都でもある松江は雨の似合う町。宍道湖や大橋川、松江城堀川にしとしと降る雨。しっとりと降る松江の雨は、木々や花々を彩りよく蘇らせ、幻想的な美しさを醸し出します。そんな松江に降る雨を、松江市内の女子高生が「縁雫」と名付けました。松江に降る雨は、心をリセットして皆様のもとへ素敵なお縁を運ぶ雨ですので、雨の島根を体験いただいたことはラッキーだったと前向きに捉えていただければと思います。

夜は宍道湖畔の島根県立美術館で、ジャズを聞きながらの懇親会でした。松江市長もお迎えして松江市内4つのお酒と、隠岐酒造の元社長さんにもお越しいただき隠岐の酒も堪能しました。また、宮崎からも宮崎限定の焼酎をご持参いただきました。

続いて、2日目は松江城周辺を散策。松江城が国宝

に選ばれた理由、廃城の危機を救った市民による寄付のお話など、松江城の歴史を深く知ることができました。また、松平不昧公を祖とする不昧流のお茶席では、お抹茶と和菓子をご賞味いただきました。続いて1日目のクロストークでもお話をいただいた松江音楽のまちプロジェクトのコンサートや鑿という大きな太鼓の練習風景を見させていただきました。この2つはどちらも、大人から子どもまで参加する取り組みです。大人が中学生に教え、その中学生がまた小学生や幼稚園児に教える。大人や上級生を見て、自分もああいうふうになりたいと憧れる。まさに世代を超えて文化を受け継いでいく様子を見ていただきました。

今回の第2分科会は、松江NPOネットワークの代表の竹田さんと事務局長の原田さん、このお二人の尽力によって実現できた企画だったと、私個人としては思っています。今回は、ほんとに盛りだくさんのプログラムをご堪能いただきましたが、このお二人が持つお友達力と言いますか、ネットワークで、関係者の皆さんや松江市の皆さんを巻き込んで、この企画が成り立ったかなと思っています。

一方で、決してお二人にしかできなかったことではないとも感じています。文化に限らず、地域づくりの原点は「つながりづくり」だと私は考えています。地域づくりは1人でなせるものではありません。1団体でできるものでもありません。分野や地域を超えて、様々なメンバーや地域がつながってこそ、合わせ技でできるものではないのでしょうか。しかも時間がかかることなので、1世代でなせるというものでもありません。したがって世代とか時代を超えてつながって継承されていく。そんな様子を垣間見ていただける分科会だったとすれば、成功だったのではないかと思います。ある関係者の女性が「松江って素敵なおところですね」とポロっと言いました。私はそれを聞いてすごくほっこりしましたし、嬉しく思いました。地元の我々も松江の魅力を再発見させていただける機会となりました。

今後とも今回の分科会で広がったネットワークを活かしていきながら、我々ももっともこの文化を大事に、そして島根を盛り上げていきたいと思っています。この度はどうもありがとうございました。

第3分科会【出雲市】 出雲国ジオガイドの会 渡邊一枝・前田みのり・渡部美智子



皆さんこんにちは。私たち第三分科会を担当いたしました、出雲の国ジオガイドのメンバーです。第3分科会「出雲神話とそして島根半島の大地の恵みを感じてみよう」をテーマに、19名のみなさまをご案内させていただきました。

初日、島根半島の西端、日御碕と、かつては北前船の風待ち、そして銅の積み出し港の町として栄えました鷺浦集落へご案内いたしました。当初日御碕では、現地ガイドとそして日御碕神社参拝を予定しておりましたが、なんと神様、出雲らしいです。お清めの雨を私たちに降り注いでくださいました。ということで急遽、バスの車窓から日本一高い日御碕灯台ご紹介しました。

続いて日御碕コミュニティーセンターにご移動し、ジオサイト、そして私たちの活動をご紹介しました。具体的な活動事例としては、戦争遺跡が残る高尾山でのトレッキング活動を取り上げました。その地に眠る歴史を地元の方々が調査そして伝承。次は鷺浦集落です。鷺浦の方では鷺浦コミュニティーセンターの方でこの集落を盛り立てようと活動される鷺浦元気な会代表のアベさんより、地域の実情と活動内容をご紹介いただきました。銅山や民具のとても貴重な展示をご覧いただき、鷺浦の特産です、藻塩作りを体験。この時皆さんやっとのアイスブレイクでもう生き生きとした笑顔で皆さんお子様のようにわくわくして藻塩作りの体験をしていただきました。その後、1日の締めとなりますのが交流会でございます。こちらではキーワードは伝統芸能の継承ということで、出雲神楽をご覧いただきました。上演いただきましたのは、出雲大社の近くにありま集落、大土地集落にあります。大土地荒神社の氏子さんたちを中心とします大土地神楽

保存会の皆様をお願いしました。結びには参加者の皆様に自己紹介をいただきました。熱い思いを語っていただきました。お食事は私どもジオガイドの会でございますので、フードロスということで、折のお弁当にさせていただきました。

2日目も安定のお清めの雨でございました。出雲の方ではお清め、禊、そして恵みの雨という風にあります。でも前日よりはまだ良かったので、予定にはなかったのですが、稲佐の浜に立ち寄りましてここでは全国八百万の神様が集まる神迎祭が行われますよということ。また、地域の方々が定期的に海岸清掃を行なっています。次は出雲大社です。なぜ大国主大神が縁結びの神様と呼ばれるようになったのか、神話をベースにお話あとは参拝をしっかりとさせていただきました。その後は大社門前神門通りの散策です。こちらでは神門通り廻りの会という地域の方たちが一生懸命頑張っていて、その方たちの努力で今ではとても賑やかになっていますよ。といったこともお話しいたしました。昼食は島根ワイナリー。島根の名産品島根和牛と、あとはやはり地域で作られているブドウで作られたワインをたっぷり堪能していただきました。以上が2日間の報告です。それでは感想に移ります。鷺地区の取り組みは、集落の維持のために地域資源を生かして地域に還元しており、とてもすごいと思いました。これからますます少子高齢化が進んでいく中で、必要な取り組みだと思いました。神話や伝承が地域や文化に根付いていることをジオガイドの皆さんのお話や現地探索を通じて肌で感じられました。

そして、最後に貴重なご意見でした。交流会で他のテーブルの方と交流ができる機会がもっとあるといいと思いましたというご意見をいただきました。私たちいろいろと詰め込みすぎて、なんか個人的に皆さんが交流する時間を持つことがちょっとできなかったなと思って、これは反省点として今後に生かしていきたいなと思っています。だんだん

第4分科会【江津市】 NPO法人てごねっと石見 清水 結衣



続きまして、NPO法人てごねっと石見に所属する清水が第4分科会の内容と振り返りについて発表をさせていただきます。

江津市はビジネスプランコンテスト（Go-Con）を軸として、地域づくりに取り組んでおります。Go-Conの取り組みによって変貌を遂げた江津市の姿を十分に味わっていただくツアー内容を企画し実施しました。

1日目は、旧跡市小学校において、SUKIMONO株式会社の平下社長にお話を伺いました。ものづくり・建設業の会社を立ち上げたいと思い、30歳でニューヨークよりUターンされた平下さんは、地元の資源を活かしたものづくり・建設業の会社を設立するためにGo-Conに出場をされました。都会ではできないものづくり・建設業を追求するため、社員の半分以上がU・Iターン者で構成されています。これらのみならず、バーの店長や宿泊業、保育園留学など、幅広く活動が行われています。ここでのキーワードは、「ここでしかできないものづくりを」ということでした。また、平下さんの「3年後の有福温泉町をフィーバーさせる」という言葉がとても印象的でした。実は私も初めて有福温泉を訪れた際には、コンパクトに収まった有福温泉街にジブリの世界に入り込んだような感動を覚えました。みなさんも是非訪れてみてください。

同日、有福温泉振興会会長の川中さんよりお話を伺いました。有福温泉町は現在、再生プロジェクトを行っており、官民連携での宿泊施設や飲食店などの改装・整備、食を通したまちづくりの推進を行っておられ、空き家を活用した移住定住促進モデルの構想も持ち活動されておられます。ここでのキーワードは、「自分たちも楽しみながら新しいビジネスモデルを形成していく」ということでした。

1日目の最後、交流会を終えた後には過去のGo-Con出場者やアドバイザーをお招きし、「江津市ビジ

ネスプランコンテストの今とこれから」をテーマに、パネルディスカッションを実施。アドバイザーによれば、「10年間以上経ったGo-Conにはリブランディングが必要な時期であり、目的を再定義し、共通言語をつくっていくことなどが必要である」とおっしゃっていました。その他、皆さんのお話の中で、「江津市に元々ある価値を未来に向けて変革していく人材を呼び込み、発掘し、新しい挑戦を応援する風土を作ることが必要であること」、「地域への想い、意欲、情熱、優しさを持った小商いをする人を増やすことが江津市の活性化に繋がる」ということが印象的でした。

Go-Con参加者がコンテストでの発表に至るまでの支援体制は手厚く、てごねっと石見が行政とともにさまざまな人を紹介する仕組みが整備されています。若者が孤軍奮闘する環境ではなく、行政を含めて多くの方が新たなチャレンジを応援できる土壌が江津市にはあります。

続いて2日目ですが、江津市に保育士としてUターンされたGo-Conの過去の出場者である盆子原さんにお話を伺いました。盆子原さんは森の幼稚園を立ち上げるために、Go-Conに出場され、「NPO法人里山子ども園わたぼうし」の立ち上げ及び森の幼稚園の教育を取り入れた「里山こども園わたぼうし」を開園。ここでのキーワードは、「自然環境のすべてが保育園であり、活動は子供たちが考え、子供の力を信じ、地域の人の関わりが子供を豊かにする」ということでした。

そして、プログラムの最後には、「風のえんがわ」という自然に囲まれた古民家レストランで振り返りを兼ねた意見交換会を実施しました。風のえんがわを営む多田夫妻も、Go-Conの過去の出場者です。

この意見交換会で出た意見は、「中間支援組織・行政・地域の距離感の近さが印象的だった」ということや、「好きなことを楽しんで行う人がさらに人を惹きつける」こと、「堂々とした地域に誇りを持つ田舎人、魅力ある仕組みや製品をもっとPRする場があったらいい」というものでした。

最後になりますが、本分科会を振り返り、私自身も江津市の良いところを再発見できました。新たなものと古いものの融合により生まれる新鮮で情緒あふれる町並みや、いきいきと楽しみながらまちのために全力を注ぐ大人たち。完成したまちは至る所で見ることができますが、江津市では日々景色が変わっていく様子を至る所で見ることができます。江津市にお越しになり、このような未完成の中にある魅力を肌で感じてみてはいかがでしょうか。発表は以上です。ご清聴いただきありがとうございます。

第5分科会【浜田市】 今福まちづくり委員会 岩崎 敏



皆さん、こんにちは。第5分科会の浜田市から来ました、金城町の今福まちづくり委員会から発表をさせていただきます。

まず、どういったおもてなしをすれば良いかということで、バスから降りられ、1番上の左側の写真ですが、歓迎挨拶の後、お茶席に移動していただきました。この庭は地域の皆さんが作ってくれました。写真では滝が4本しか見えませんが、全部で7本あります。この竹を持って、体育館の中に庭を作り、後ろに池も作りました。そして、茶楽の会の皆さんが抹茶を差し上げております。お茶にはお菓子がつきものですが、このお菓子も委員会の組織の一員である「保護者世代女性組織ゆるり」の皆さんが「私たちが作ります」と言っていて、6人で今福の福と栗で、福栗（ふっくり）という名前を付けたお菓子を作ってくれました。それが写真の上の部分でございます。これでお客さんの気持ちも和んで来たのではないかと考えています。

それから元の会場に戻りまして、我々が取組んでいる活動の報告をしました。我々の活動の中で1番は、9年前にスーパーがなくなりましたので、私たちが市をやるうと「もやい市」を作り、4月から12月まで月に2回、第1・第3の土曜日に開催しています。これの応援隊に、地元の島根県立大学の学生さんが、応援に来てくれます。屋台の手伝いや学びの場を作ってくれています。この学びの場は、子供たちではなく保護者の皆さんも非常に喜ばれていて、小学生から中学生まで塾代わりに勉強を教えてくださいました。

それから、委員会の中に「ほっかほっか会」という組織を作り、農福連携を目指し、さつま芋の栽培を行っています。地元の皆さんにも作って頂いて、我々が買い上げて焼き芋やスティック芋にし、また、特産加工品として「蒸すの福ちゃん」「干し芋」を販売しています。そういった活動報告。

それからもう1つは、シャインマスカット栽培です。これも委員会の組織である「シャインマスカット栽培PJT」で作っています。目的は、儲かる農業の実証と地域住民への安価での提供です。今年で5年目になり、収穫も軌道に乗って来ました。また、小学生に校外学習の一環として収穫体験なども行っています。そういった活動報告。

それから後は、農地利用活用とか課題解決、また、委員会の交流部会に所属しているサークルや教室の活動紹介及び、これら団体と一緒に活動している状況を報告いたしました。

それから下の写真ですが、左側これは懇親会の時の歓迎の一コマです。これは14人の踊りのグループ「いまふく笑舞会」です。ちょっと写真が遠いですが、これは踊りの1つです。当日は4曲ほど踊っていただきました。そして右側は夜なべ談義の写真です。夕食交流会が終わった後で、もう1回席を替えて夜なべ談義を行いました。この時もお客さんからお酒の提供がございました。地元のお酒も用意しておりましたが、全て無くなり、終わったのが、夜中の2時頃でした。

これは2日目です。2日目は生憎の雨でしたが、左の写真はウエスタンライディングパークでの乗馬や餌やりの体験をして頂きました。19名のお客さんの中で乗馬経験者が2人ぐらいおられましたが、全員に乗って頂きました。馬はアメリカンクォーターフォースという非常におとなしい馬です。そして右側は「幻の広浜（こうひん）鉄道今福線」の現地に行きました。この時はちょうど雨が上がりましたので、散策してもらいました。そして下の写真、これは土木遺産に認定されておりますアーチ橋です。そして右側が日本海、浜田港を見ながらの昼食会です。

参加者の皆さんの感想、あるいは提言ですが、まちづくり委員会が1つの自治体みたいで、組織の大きさあるいは細かさに驚いたというご意見でございました。取り組みの大きさに驚かされたということでございます。ありがとうございます。

それから座学が大変勉強になった。座学というのは報告会のところですか。また、地域づくりは仲間づくりである事を改めて実感した。

最後に、全国の地域づくり関係者と意見交換が出来て、今後の取り組みの参考になりました。これからも、今福まちづくり委員会の取組みを進化させて行き、仲間作りを大切にしながら、幸福感度100パーセントを目指して“支えあう、いま・福のある里づくり”を一層進めて行きたい。以上で第5分科会の発表を終わります。ありがとうございました。

第6分科会【邑南町】 NPO法人江の川鐵道 日高 弘之



邑南町から参りました。5年前に廃線になった三江線を逆手にとって地域振興をしたいということで、この5年間取り組んでまいりました。

その辺のNPOとして活動してきた内容、その他、地域での皆さんの報告をさせていただきたいと思いません。

早速ですが、第1日目、雨の中だったのですが、本当は私たちの組織を紹介するのが先なのですが、時間と場所の関係で、まずはトロッコに乗っていただくということで、宇都井駅に来ていただいて、トロッコに乗っていただいた。トロッコの定員が10名ですので2回に分けて、待っていただいている方はトンネルを散策するという格好で展開をさせていただきました。

この駅は高さ20m、階段が116段と大変なところを上がっていただいたのですが、トロッコはこの宇都井駅からトンネルを出て、河川の大河を渡って向かい側の三次市作木町の伊賀和志駅の手前まで行って帰ってくるということで、雨の中で大変お気の毒だったのですが、多分皆さんには喜んでいただいたのではないかと考えております。

その後、夕方になりまして、口羽の方で説明会を江の川鐵道の説明をさせていただきました。画面の左下の絵ですが、ここでは我々の取り組みのこれまでの歴史、それから取り組んでいる現状、その他課題について申し上げたのですが、私たちが本当にありがたいと思っているのは、この鉄道資産を活かして地域振興を行おうということで、各地から関係人口という形で関わってくれる人がいる。トロッコの運転に来てくれる人も、車掌をやってくれる人も、受付やってくれる人も、こういう人たちによって成り立っておりまして、おかげさんで去年1年間、宇都井駅と口羽駅入場者数、それからトロッコ乗車数全部合わせて1,800人、三江線が走っている時には、何人乗っていたかも申し上げるまでもないと思いますが、本年度は多分もっと増えていますので、完全に2,000人は超す

のではないかと考えております。そういう活動の内容報告と、我々が今後取り組まなきゃいけない課題についてご説明をさせていただきました。

続いて、その夕方、分科会の交流会ということでやらさせていただきます。口羽公民館にこの活動に対して非常に熱心に支援をしていただいた、石橋良治邑南町長も来ていただきまして、我々の活動に対する評価等も報告していただいたと。

2日目になりまして、今度は場所を口羽の交流センターという場所に朝から移しまして、私どもとは別の3団体を紹介しました。3団体といいますのは、阿須那という地域を再生しようという若い人たちのグループ、それからもう1つはあとで行くのですが久喜銀山をガイドしている人たちのグループ、そしてはすみ振興会というNPOが立ち上がりました。これは阿須那・口羽は非常に過疎化の先進地と言われたようなところを、なんとかしなきゃいかんと地元で頑張っていたところに、追い打ちをかけるように三江線の廃止というようなことがあったので、高齢者の生活を守るためのオンデマンドの運行、それから小さな拠点づくりの、いわゆる実行部隊としてはすみ振興会という組織が立ち上がりまして活動している、そういう紹介をさせていただきました。

その後、口羽駅の鉄道公園を見学してきます。今度は口羽駅の方に行きまして、駅構内から留置車両設備等を見学していただいたのですが、ここにはさき走った車両以外にクラウドファンディングで購入した車両、その他を残しておりまして、それらを見ていただいたり見学し、その後、阿須那の方に移動しまして、阿須那の町の散策を行いました。阿須那は上賀茂神社から受けた大きな昔からの神社がありまして、昔からの町並みと紹介をさせていただきながら、池月酒造さんという酒蔵の中に入らせていただいて見ていただいて見学をさせていただきました。

その後、右側にございます久喜銀山跡に参りました。ここは大森銀山に勝るとも劣らぬ非常に貴重な銀山跡だということを改めて感じておりますが、ここを熱心なガイドで説明をしていただいて見学しました。

そういう場所を見学した後、この2日間の日程を終了させていただいたのですが、参加者の方々のご意見や分科会の内容はとても参考になりました。ありがとうございました。

分科会交流会では、地域の食文化を味わうことができて良かったです。参加者の皆さん1人1人と、団体のメンバーが個別にコミュニケーションを取ることができた、これは非常に貴重だったと思います。

分科会で生まれた様々な方のご縁を大切にしまして、今後の活動を続けてまいりたいと思います。これで報告を終わらせていただきます。ありがとうございました。

第7分科会【益田市】 とよかわの未来をつくる会 小野 涼太



皆さんこんにちは。とよかわの未来をつくる会の小野涼太と申します。よろしくお願いします。

この第7分科会では、「ひとが育ち輝くまち益田から全国へ」というテーマのもと、活動を行いました。参加者の皆さんも地域の皆さんの熱量もすごくて、とてもこの短い時間でご紹介するのはちょっと酷なので、まとめた動画を作ってきました。ぜひご覧ください。

～動画再生～

今見ていただいたのは、2日間の様子をまとめたものになるんですが、ここはさくっと紹介していきたいと思います。

1日目の分科会は、今皆さんがいるグラントワのこの小ホールこの舞台上で、益田市の人づくり地域づくりについての取り組みを、行政から説明があった後、豊川地区の活動の取り組みについて説明を行いました。

また、分科会の交流会の方では、参加者の皆様が泊まられていたMASCOS HOTELの1階のレストランにて行ないました。豊川地区の中学生の和太鼓チーム「KABUTO」の和太鼓演奏から交流会が始まりました。皆さん、お話とお酒が進む、とても楽しい会となりました。

2日目は実際に豊川地区に来て、活動を直に体験してもらうといったことを行いました。ここでは豊川地区の中学生高校生の活動グループ、とよかわっしょい!!の活動紹介を、僕も社会人OBとして、またこの日のためにわざわざ大学生が2人帰ってきて、大学生と社会人の4人で活動紹介を行いました。実際の地域の活動の中で、小学生と大人が一緒に活動しているところの様子も見ていただきました。また、フルーツガーデンや、とよかわの家といった施設も見学していただきました。

参加者の感想です。次世代に継ぐ仕掛け作りや、人材育成の基礎を見させていただきました。子供のやっ

てみたい、などの挑戦を支える大人、そしてそれを後押しする行政の方の包括的な視点っていうのを見れました。感じました。という意見があったり、また、子供を中心に人を育てる環境だったり、楽しみながら継続する取り組みっていうのを体験できました。など、皆さんからたくさんの感想や意見をいただくことができました。

この分科会の受け入れをやってみて振り返って思うことなんですけども、みんなが一つのことを作り上げていく段階で、それぞれができることや、やるべきことをやっていって、その過程や一体感っていうのが、分科会をやっていく中で、チーム豊川としての一体感というのを感じました。

この一体感は、地域の活動においても、同じものがあるのかなというふうにやっていたと思います。そしてこの分科会を通して、楽しいというものがキーワードだったんですけど、この分科会の受け入れにあたっては、もちろん楽しいことだけじゃなくて、大変なこともあったんですけど、その過程を楽しむっていうことが結果として全員が楽しめる素晴らしい会になったのかなというふうに思います。

地域の活動においても、いきなり地域課題から取り組むのではなくて、自分たちのやりたいことや楽しめることを次々やっていったその結果として課題解決につながる、解消につながるということが重要なのかなというふうに、この会を通して改めて思いました。

そして僕自身なんですけど、この益田豊川地区で子供として地域の活動を通して育ててもらって、そして地域作りを志して東京の方の大学に進学して、今年の3月に大学を卒業して、益田に戻ってきて、今度は大人の立場というところになった時に思うこととしては、これまでその地域の方々に育てていただいた、してきていただいたことを、今度は次の世代の子たちに返していきたいなというふうに思っております。恩返しという言葉はありますが、地域の方から受けたものをそのまま直接お返しするというのは、なかなか形に残りにくく、返しにくいところではあるんですけども、次の世代の子供たちに自分たちがしてきてもらったことと同じことをしてあげる、それ以上のことをしてあげるといった、恩送りといったことをしていきたいなというふうに改めて思いました。

今回のこの分科会には、地域の豊川地区の皆さんにかかわっていただきました。その背景には大人も子供も楽しく、自分たちで主体性を持って活動している姿があります。地域で人が育ち、一人一人が輝いているのが豊川地区です。人が育ち、輝く町から全国へということで、僕たちの熱量、皆さんに届いたのではないかなと思います。以上で第7分科会の報告を終わります。ありがとうございました。

第8分科会【海士町】 一般財団法人島前ふるさと魅力化財団 ロドリゲス 拓海



第8分科会海士町です。我々は、今回「離島にもっと若者の還流を」というテーマで分科会のテーマを決めて進めてまいりました。来島後、海士町の取り組みをまず紹介する時間を設けました。

海士町は行財政改革がきっかけとなって、20年近く様々な町のまちづくりの取り組みを行ってきました。その中で生まれてきた「大人の島留学」という1個切り口を、今回皆さんに2日間かけて体感していただくということで、最初の説明を行ってきました。

1つキーワードとして、若者に選ばれる地域ってどんな地域なんだろうね？というところをグループに分かれてディスカッションした後に、それを実際にどのようにやっているのかを見て回りました。

分科会交流会は、島にある海鮮の居酒屋さんで、今実際に島に来ている大人の島留学生や、大体20代ぐらいの若い人たち10名を交えながら交流会としました。

その後の2次会も含めて、皆さん深くいろいろお話ができて、いい時間が過ごせたんじゃないかなと思っています。

2日目は、今回我々は海士町だけではなく、西ノ島町・知夫村という島前地域を舞台として実施しておりますので、隣の島へチャーター船を使って移動しました。まず知夫村へ行きますと、ユネスコ世界ジオパークに認定されている雄大な景色を見ていただいた後、ちょうど村の産業文化祭が開かれておりましたので、その産業文化祭に行って、知夫の皆さんの実際の生活の姿というものを見てもらいました。

その後、また船に乗りまして、西ノ島町というもう1個のお隣の島に移動しました。お昼を食べながらコミュニティ図書館「いかあ屋」という図書館で西ノ島町に在住してる大人の島留学生等にお話を聞きながら、また理解を深めていただきました。

最後海士町の方に戻ってきまして、意見交換会ということで、この2日間どうでしたかという話を振り返りながら、皆さんの来られた地域にどういったヒント

があるのか話をしました。そして最後、島の料理学校の生徒さんが作った料理を皆さんで一堂に会して食べて懇親を深めるということもしました。

次のページです。最後に参加者の意見であったり、感想を聞きたいなと思っておりますのでよろしくお願い致します。

『私がこの2日半過ごした中で1番印象的だと思ったのは、このスライドの1番下の方にも書いてあるんですが、行った先々の方々のお話をしておられる様子です。図書館の司書さんとか学習スペースにいる高校生とか、いろんな方々に行った先々で、分科会の参加者からいろんな質問を投げかけたんですけども、どんな質問に対しても自分の言葉で熱く語っておられる姿に、すごく島全体として皆さんが自分事として町を良くしていこうという風な空気をすごく感じることができて、すごいいい経験になりました。ありがとうございました。』

ありがとうございます。次のスライド。分科会を振り返ってというところで、もう1名の方にお話を伺いたしたいと思います。お願いいたします。

『私はこの2日間で、海士町の島前高校の復活や、島の活性化において感じたことですが、海士町独自の仕組みに沿って、子供から高齢者の島民の皆さん、行政、島外から来た若い方が、みんなで島の問題を正面から1つ1つじっくりと考え話し合っ、すぐに行動を起こしていってほしいなと思いました。』

見学させていただいた島の中の日常には、新しい発想や思いやりがたくさん詰まってました。ピンチはチャンス、海士町は島民の方より、島民になった全国の若者たちが、島の古き良き伝統に光を当てて島の人々とスクラムを組んで、元気な島に生まれ変わらせているんだなと学べました。

人が人を引きつけて、引きつけられた人がまた人を呼ぶ。これが還流するってことなんだな。まさしく地域づくりの大切さを、海士町の皆さんに学ばせていただきました。素敵なお縁をありがとうございました。』

ということで、我々地域づくりというところで活動日々してますけども、今日こういった形でいろんな地域の方と交流をする中で、我々の地域のことを学んでもらうというより一緒に議論する中で、新しい学びを一緒に得られたということがすごく大きな成果だったのかなと思っています。

併せて、各地域でやってる取り組みそのままを真似るというより、各地域のやっているその取り組みの背景にある考えとか思いみたいところを汲み取りながら、それぞれの地域に合った取り組みに、逆に今度落とし込んでいくというのが大事になってくるんじゃないかなというのを感想として思いました。

ありがとうございました。

次回開催県 宮崎県 PR

宮崎は、楽しくなければ地域づくりじゃないをモットーに活動しております。来年の宮崎大会に向けて各分科会さまざまな企画を準備しておりますので、宮崎大会へぜひお越しください。お待ちしております。

◆高千穂郷ブロック

高千穂郷に住まう人々の暮らしに寄り添ったフットパスコース、地元の方々に愛される郷土料理、そして有名な神楽を用意しております。

阿蘇の広大な自然に沈む夕日、そしてまるで星空に手が届きそうなほどの星空を見て、五感でパワースポットを感じませんか。

◆延岡ブロック

延岡市には、全国でも珍しい焼酎、地ビール、日本酒の3つの酒蔵が揃っており、今回はその三つ蔵を巡って、そのご当地グルメで、皆さんをおもてなししたいと思います。

◆日向東ブロック

日向市は海が近い、山が近い、温かい人たちが近い、日向市サーフスポットで有名です。ゆっくり流れる時間の中で、海の体験をしてみませんか？そして、ひょっとこたちが踊ります。

◆児湯ブロック

人口16,000人の町に誕生した女子サッカーチーム。若い26人の移住者たちが私たちの町にどんな効果をもたらしたのか。この事例を使わない手はありません。

◆宮崎ブロック

宮崎市の南部青島を舞台に分科会を開催します。青島地区は、観光客が3倍増える、そして土地の価格も5倍増えるなどの課題を持つ中で、地域の人たちが地域で子どもたちの教育に投資するというような活動しております。

◆西諸ブロック

日本で最初に国立公園に指定された霧島連山をさまざまな形で体験していただきながら、その恵みを受けて育った極上の食を満喫していただきます。

そして、それらを活かしたまちづくりを今リードしている地域商社の事例も紹介できたらと思います。

◆都城ブロック

都城市といえば、肉と焼酎が日本一、そしてふるさと納税日本一。

肉と焼酎のマリアージュを、ぜひ楽しんでください。

◆日南串間ブロック

猫さえ歩かないシャッター商店街の奇跡の再生について、事例を元に街歩きをします。

また、都井岬に生息する野生馬が地域にどういった影響を与えたのかガイドとともに学びます。

閉会あいさつ

閉会あいさつ

島根大会実行委員長 小笠原 勝司

皆さん、3日間お疲れ様でした。

先ほど宮崎県から、来年度の開催に向けて力強いPRがございました。これで、心置きなく次の宮崎県にバトンタッチできるかなと確信をしております。来年度は島根県からも大勢で参りますので、よろしくお願ひします。

今年の3日間、島根県の生活はいかがだったでしょうか。もし、いいねということがありましたら、ぜひ私の方に直接お伝えいただきたいと思ひますし、逆にクレームがありましたら、私以外のスタッフにお伝えいただくと喜びます。

今日の分科会報告の中でひとつ、「あーそうなんだ」と思ひしたのは、もちろん県外の皆さんへのおもてなしに力を入れたというのは当然なんですけども、地元の皆さんも、おもてなししたことによって、地元の魅力を再発見できたという報告がありました。これはエネルギーをかけて皆さんをおもてなししたことの副産物かなと思ひて、これもありだなと思ひて聞いておりました。

私も去年長崎県に行きまして、長崎県でいろいろまわってワークをして、お酒を飲んで知り合ったという方と、今でもやり取りが続いています。同じように、今年もこの島根大会をきっかけにして、ぜひ1人でも多くの方と、これからもつながり続けるような関係になっていただいたら、私どもとしても、してやったりかなと思ひていますので、ぜひ名刺交換などまだしてない方は、していただきたいと思ひます。

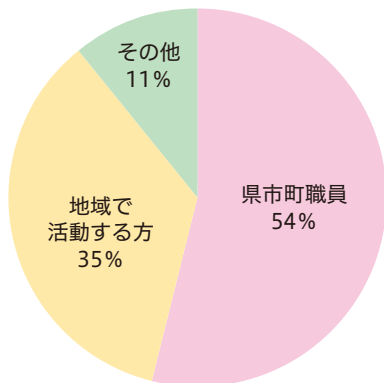
明日からは現実に戻りまして、皆さんそれぞれの道を歩んでいくこととなりますけども、同じ方向を向いた仲間だよなということは、私たちみんな気づいていると思ひます。

ぜひこれからも、ともに助け合ってそれぞれの地域が少しでも良い方向に進むよう、皆さん一緒に頑張っていけたらと思ひます。3日間どうもありがとうございました。来年はぜひ宮崎県で会いましょう。どうもお疲れ様でした。

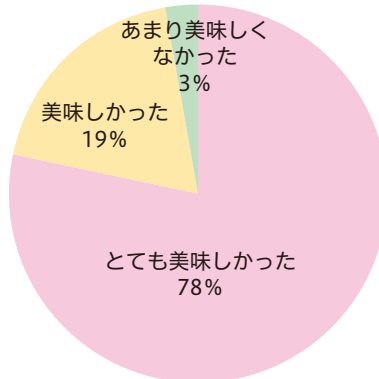


全体交流会・全体会アンケート結果

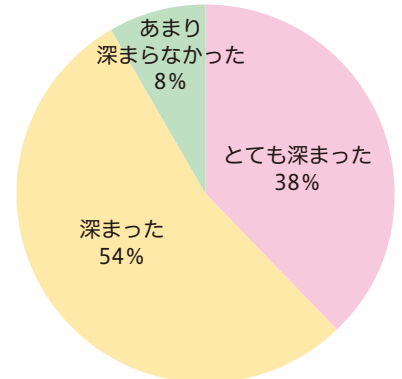
● あなたの所属



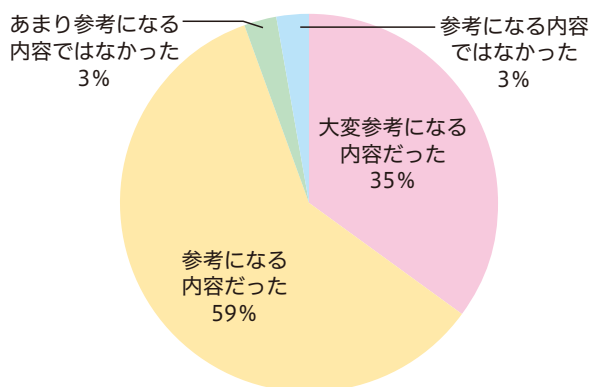
● 全体交流会の食事は どうでしたか？



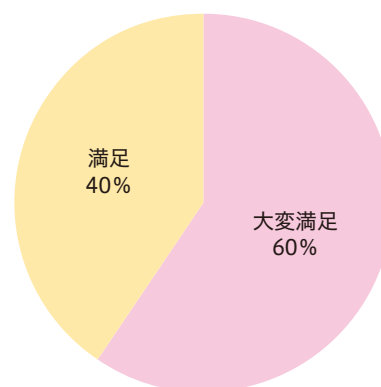
● 全国からの参加者と 交流は深まりましたか？



● 全体会の報告の内容は、今後の 活動に参考となる内容でしたか？



● 島根大会全般について、大会を 通しての満足度をお聞かせください



● その他の自由意見

- ◆ 私は初参加でしたが、何度も参加された方の話では「料理は今までと比較して良かった」とのことでした。地域で活動に取り組まれている人達の熱い思いに触れさせていただき、元気をもらいました。準備を進めて来られた方、運営スタッフの方々、お疲れさまでした、感謝いたします。
- ◆ 3日間大変お世話になりました。今回得たことを地元に戻って生かしたいと思います。
- ◆ 開催地が西日本に偏っているので東日本でも開催してほしい。
- ◆ 全体会での分科会報告までの挨拶が長すぎるように思います。分科会の発表にもっと時間を割くべきだと感じました。
- ◆ 益田駅の電車時刻に合わせたスケジュール。夜の2次会と終了後の昼食場所の紹介もあってよかったと思います。全体的には満足でした。
- ◆ 全体として大変有意義な3日間でした。ありがとうございました。
- ◆ 運営等お疲れ様でした、たいへん楽しませていただきました。
- ◆ 非常に有意義な時間を過ごせました。分科会を含め交流が広がりました
- ◆ 全体交流会の食べ残しがあり、フードロスにつながると勿体ないと思いました。
- ◆ 全体交流会での石見神楽が大変よかったです。第39回のテーマで“ご縁でつながる地域づくり”が島根らしい内容で良かった。全体会の岡崎会長のあいさつの内容が良かった。

● 全体会で参考になったこと、感想等について

- ◆ 地域の特徴を多面的にとらえられる内容が多く、実行にうつしたいと思う。
- ◆ 各分科会の報告が思った以上に良かったです。島根県の地域づくりが盛んであることを学びました。
- ◆ 別の分科会のメンバーと新たに親しく情報交換、意見交換することが出来た。有意義な時間を過ごすことが出来た。
- ◆ 地域づくりは仲間づくり、様々な分科会のお話を聞くことができ、参考になりました。
- ◆ 普段、会うことがないような方と情報交換ができ、とても有意義な時間となりました。終わった後も連絡をやりとりできる人ができました。
- ◆ 見学やディスカッションも良いが、安来の分科会のように、みんなで体を動かして踊る、みたいな体験ができると良い。
- ◆ 分科会最中に感激しっぱなしでしたが、益田に参加して良かったと感じます。毎年思う事ですが、参加しなかった地域の良さは、全体会だけでは伝わらないので、ゆっくり訪れたいです。
- ◆ 参加出来なかったほかの分科会の内容を知れたのは良かった
- ◆ それぞれの地域でそれぞれ奮闘している人がいることを発見できて良かった。島根県の幅広い取り組みが参考になりました
- ◆ 参加した分科会以外の地域での取り組みもしっかりまとめてあって非常に参考になりました。
- ◆ 各10分の報告では伝わらないことが多く、ワークショップ型で意見交換を全体会で行ってほしい。全体交流会は飲食を伴うのもよいが、そうでない形も考えていただきたい。全体会は休憩時間が欲しかった
- ◆ 全体交流会ではおもてなしの料理が良かった。全体会はそれぞれの発表は良かったが、時間にゆとりがほしかった。



参加者一覽

都道府県 氏名 所属団体

◆第1分科会：安来市

宮崎県	立石	真一	日向ひよっこ夏まつり実行員会
宮崎県	高橋	勝栄	NPO法人ひむか体験ワールド
宮崎県	末永	雄大	ばあばの知恵袋さくら
宮崎県	日高	茂信	やっちみろかい酒谷
熊本県	木渡	村彰	熊本県合志市
群馬県	栗原	靖靖	群馬県
広島県	西田	達志	北広島町
長崎県	日宇	スギノ	長崎県地域づくりネットワーク協議会
長崎県	山口	成美	フェルム・ド・外海
島根県	佐々木	来子	有限会社シュシユ
島根県	高嶋	保江	長崎県
島根県	池田	哲也	島根県教育指導課
東京都	山岸	美貴	出雲市役所
栃木県	川瀬	勇輝	島根県松江教育事務所
福岡県	川原	みなみ	地域づくり団体全国協議会
和歌山県	菊地	悠太	栃木県庁
			福岡県
			和歌山県

◆第2分科会：松江市

茨城県	山形	沙也香	茨城県自治研修所
宮崎県	児玉	浩明	宮崎県
宮崎県	金丸	美保子	NPO法人文化本舗
宮崎県	高木	ひかり	日向ひよっこ夏まつり実行員会
宮崎県	中村	光彦	みやこんじょ力俣組合
宮崎県	井上	優	NPO法人宮崎文化本舗
宮崎県	植村	道広	NPO法人どんぐり1000年の森をつくる会
宮崎県	藤巻	祐輔	NPO法人どんぐり1000年の森をつくる会
群馬県	池田	典子	NPO法人 エコ・ボランティア
石川県	村本	睦子	石川地域づくり協会
長崎県	岡本	勇一	野母崎で音楽を聴く会
長崎県	江口	真紀子	上五島ふるさとガイドの会
鳥取県	椿	善裕	公益財団法人とっとり県民活動活性化センター
島根県	岸	尚樹	島根県中山間地域・離島振興課
東京都	川住	昌英	地域づくり団体全国協議会
栃木県	横田	英輔	栃木県庁
福井県	多田	多田	NPO法人農と地域のふれあいネットワーク
福井県	多田	憲市	NPO法人農と地域のふれあいネットワーク

◆第3分科会：出雲市

沖縄県	西銘	史則	公益社団法人沖縄県地域振興協会
宮崎県	井尻	凧	宮崎県
宮崎県	杉田	英和	NPO法人五ヶ瀬自然学校
宮崎県	馬場	久治	ひむか共和国実行委員会
宮崎県	有馬	義人	川南町若者連絡協議会
宮崎県	川上	喜義	koyu(^_^)freee
宮崎県	熊本	峰生	ゆのまえGT未来ねっと
群馬県	藤山	紫生	文科創生研究所
香川県	桑田	衣里	東かがわ市
埼玉県	本野	雅慶	埼玉県
埼玉県	森本	裕而	青森県庁
長崎県	松本	茂子	特定非営利活動法人DONDON奈留
長崎県	吉原	文子	特定非営利活動法人DONDON奈留
長崎県	長岡	勝廣	特定非営利活動法人DONDON奈留
長崎県	福喜	京子	長崎県世界青年友の会
長崎県	小川	ひとみ	長崎県世界青年友の会
島根県	岩田	裕治	島根県教育指導課
島根県	望月	月恵	島根県地域政策課
東京都	熊谷	浩志	地域づくり団体全国協議会

◆第4分科会：江津市

宮崎県	青野	雄介	一般社団地域おこし協力隊ネットワーク
宮崎県	平田	ひかり	NPO法人サン・ヴィレッジ
埼玉県	茂木	八千代	文科創生研究所
埼玉県	石田	崇史	石川地域づくり協会
長崎県	田中	秀穂	千々石こだわり倶楽部
長崎県	田原	耕三	(社)南島原世界遺産市民の会
長崎県	楠原	三稔	長崎県佐世保市世知原町
長崎県	宮本	浩次郎	長崎県
東京都	大上	晴子	地域づくり団体全国協議会
栃木県	高橋	岳雄	栃木県
兵庫県	尾前	和彦	メイプルタウンクラブ
兵庫県	尾前	和彦	メイプルタウンクラブ
兵庫県	寛	和彦	メイプルタウンクラブ
兵庫県	鎌田	勝也	メイプルタウンクラブ
兵庫県	石垣	統久	(公財)しそう森林王国観光協会

都道府県 氏名 所属団体

◆第5分科会：浜田市

宮崎県	壹岐	公晴	NPO法人文化本舗
宮崎県	根岸	裕孝	宮崎大学
宮崎県	寺原	史紀	宮崎県
宮崎県	吉谷	直美	(霧島おむすび自然学校)
宮崎県	河野	博通	ランブス株式会社
宮崎県	鶴羽	羽浩	宮崎「橋の日」実行員会
宮崎県	島川	中星	株式会社プリング
熊本県	内山	孝好	山江村観光交流促進協議会
熊本県	遠藤	修勝	中山間松尾集落
香川県	藤岡	修勝	五郷里づくりの会
青森県	石戸	谷優	青森県庁
石川県	三津井	澄子	石川地域づくり協会
長崎県	山口	澄子	アグロス五島
長崎県	網本	定信	五島地域づくり応援団
長崎県	白石	敏郎	NPO森里協議会
島根県	白部	明智	島根県中山間地域・離島振興課
島根県	石川	直	島根県地域政策課
東京都	小笠原	啓太	島根県しまね暮らし推進課
東京都	大和	史弥	地域づくり団体全国協議会

◆第6分科会：邑南町

宮崎県	松元	修	フォレスト (森の守り人)
熊本県	稲田	優	NPOかチャリンクやまえ
香川県	橋本	裕生	東かがわ市
滋賀県	賀部	学	滋賀県総務部市町振興課
石川県	濱村	博一	石川地域づくり協会
長崎県	松村	信彦	NPO法人 森里海再生協議会
長崎県	小林	善輝	西海陶器
長崎県	土屋	晴美	長崎県
島根県	島田	範明	島根県市町村振興協会
島根県	山内	明子	(表示なし)
島根県	三代	哲郎	島根県中山間地域・離島振興課
島根県	福島	芳明	島根県しまね暮らし推進課
島根県	武田	亮佑	島根県地域政策課
東京都	佐藤	啓太郎	地方公務員災害補償基金
東京都	坂波	省三	地域づくり団体全国協議会
福岡県	内田	朱音	福岡県
北海道	小川	朋栄	地域づくりネット深川輝人工房

◆第7分科会：益田市

沖縄県	石川	寛人	公益社団法人沖縄県地域振興協会
宮崎県	高木	慎平	細島みなと祭り実行員会
宮崎県	河野	景子	NPO法人都農enjoyスポーツクラブ
宮崎県	名田	敬仁	NPO法人宮崎文化本舗
熊本県	江浦	誠志	特定非営利活動法人 自立応援団
熊本県	福島	貴志	特定非営利活動法人 自立応援団
熊本県	生駒	春美	特定非営利活動法人 自立応援団
熊本県	小川	聡己	田舎の体験交流館さんぐらう
山口県	山井	貴介	山口県教育庁
青森県	福山	大介	青森県庁
大阪府	西井	ちさと	社会福祉法人和泉市社会福祉協議会
大分県	片野	裕貴	株式会社地域科学研究所
長崎県	清水	啓介	長崎県地域づくりネットワーク協議会
長崎県	清村	修生	長崎県地域づくりネットワーク協議会
長崎県	福喜	哲史	長崎県世界青年友の会
島根県	小島	陵加	出雲市役所
東京都	岡崎	昌之	地域づくり団体全国協議会
東京都	米澤	朋通	地域づくり団体全国協議会
東京都	本間	歩	地域づくり団体全国協議会

◆第8分科会：海士町

沖縄県	菊池	沙亜耶	公益社団法人沖縄県地域振興協会
野川	喜美子		囃鳴会 (おうめいかい)
宮崎県	谷口	由智子	囃鳴会 (おうめいかい)
宮崎県	杉浦	風ノ介	六日町合同会社
埼玉県	優	作	埼玉県
埼玉県	梢	正美	石川地域づくり協会
長崎県	青山	一信	上五島ふるさとガイドの会
長崎県	中山	忠治	チーム防人
長崎県	中村	宏治	佐世保市
長崎県	小原	浩二	新上五島町
長崎県	宇戸	章仁	はまぐりデッキ
長崎県	宇戸	淳	はまぐりデッキ
鳥取県	本夏	樹	境港市役所
島根県	清水	楓	島根県産地支援課
島根県	森口	三佳	島根県市町村振興協会
東京都	柳田	憲英	地方公務員共済組合連合会
東京都	杉井	雅也	地域づくり団体全国協議会
栃木県	荒井	剛志	栃木県

◆全体会・全体交流会

島根県	藤間	博之	島根県市町村振興協会
-----	----	----	------------



第40回地域づくり団体全国研修交流会 宮崎大会



たかちほ
高千穂町・五ヶ瀬町

のべおが
延岡市

こぼやし
小林市

みやこのじょう
都城市

しんとみ
新富町

ひゅうが
日向市

にちなん
日南市・串間市

みやざき
宮崎市

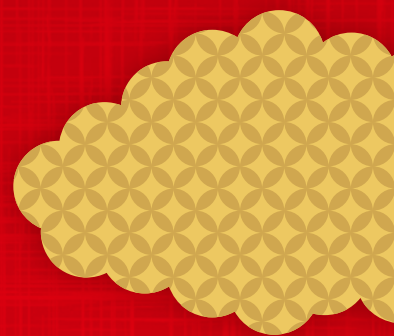
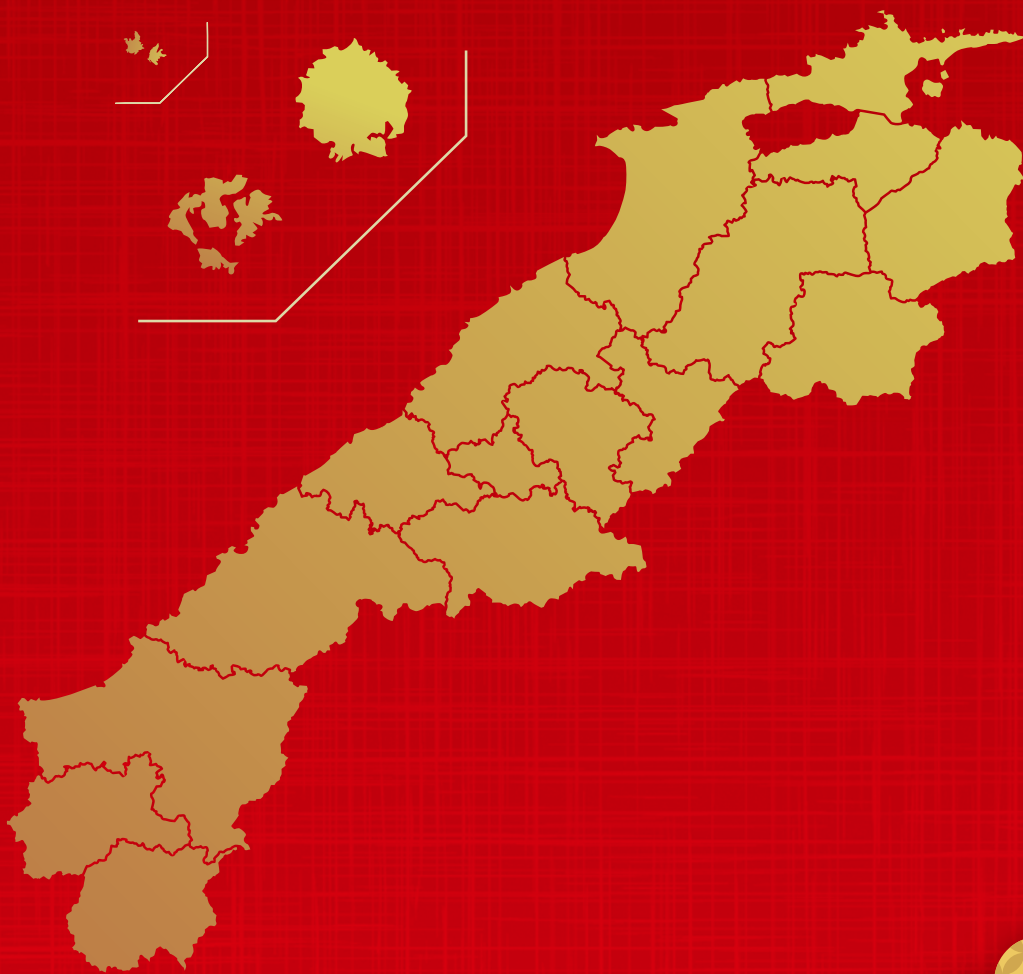
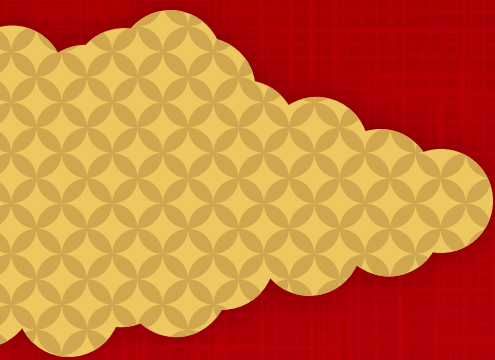
きつて！よってん！
日本のひなた
宮崎県

日 程

令和6年 11/1(金)18:00～
全体交流会 (宮崎市)
会場：ガーデンテラス宮崎
宮崎を下原町247-18

令和6年 11/2(土)
分科会・交流会
(県内8分科会場)

令和6年 11/3(日)13:30～
全体会 (宮崎市)
会場：KITEN ビルコンベンションホール
宮崎市錦町1番10号 KITENビル8階



第39回 地域づくり団体全国研修交流会
島根大会報告書

令和6年3月発行

■編集・発行
第39回 地域づくり団体全国研修交流会島根大会
実行委員会事務局